

輝き続ける 世界都市横浜の実現に向けて

横浜市都心臨海部再生マスタープラン

<答申>

<目次>

1.	都心臨海部再生マスタープランの策定の趣旨	・・・	1
2.	都心臨海部再生マスタープランの位置づけ	・・・	2
3.	都心臨海部の重要性	・・・	3
4.	都心臨海部の特性	・・・	4
5.	都心臨海部強化に向けた考え方	・・・	8
	■ 2050年に向けたまちづくりの視点		
	■ 都心臨海部の将来像		
	■ 3つの基本戦略		
	・ 次の時代の横浜の活力をけん引するビジネス・産業づくり		
	・ 豊かな創造力・市民力が息づく横浜スタイルの暮らしづくり		
	・ 個性豊かなまちの魅力をつなぎ港と共に発展する都心づくり		
	■ 5つの施策		
	・ 施策①「世界中の人々を惹き付ける拠点・空間の形成」		
	・ 施策②「まちを楽しむ多彩な交通の充実」		
	・ 施策③「世界を先導するスマートな環境の創出」		
	・ 施策④「災害に強い都心臨海部の実現」		
	・ 施策⑤「都市活動の担い手が活躍する仕組み・体制の充実」		
6.	参考資料	・・・	24
	■ 審議会の検討経過		
	■ 審議会の委員名簿		
	■ 審議会における主な意見・アイデア		

1. 都心臨海部再生マスタープランの策定の趣旨

【なぜ今、都心臨海部再生マスタープランが必要なのか】

安政6年（1859年）の開港以来、都心臨海部は横浜の中心地として発展してきました。昭和40年（1965年）には、横浜の骨格を築く「横浜の都市づくり将来計画の構想（六大事業）」を発表し、都心部強化事業として、みなとみらい21地区の造成に着手し、現在の横浜都心部を形成してきました。

今日では、「横浜の都市づくり将来計画の構想」発表より約50年が経過し、以下のような社会状況の変化が想定されており、横浜のまちづくりとしての対応が求められています。

- 人口減少・超高齢社会の到来による都市の活力低下
- 交通手段や情報通信技術の飛躍的な進歩により、人・企業がより優れた活動・生活場所を「選ぶ」時代の到来
- 市民の価値観やライフスタイルの更なる多様化
- 地球規模で進行する気候変動への対応
- 東日本大震災を契機とした災害対策、エネルギーに対する市民意識の変化
- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を契機とした横浜の更なる活力の向上
- 羽田空港国際化、中央新幹線（リニア）の整備など広域交通インフラの充実と、それに伴う都市間競争の激化 など

また、平成22年（2010年）には、横浜市インナーハーバー検討委員会から、都心臨海部・インナーハーバーにおけるまちづくりの方向性が提言されました。

将来の社会状況の変化に対応し、**将来にわたり輝き続け、魅力にあふれた“世界都市”の顔としての都心臨海部を形成**するため、中・長期を見据えた都心臨海部再生マスタープランを策定します。マスタープランには、横浜市民をはじめ、事業者、NPO、行政など、まちづくりに関わる多様な関係者・団体の**共通指針となる、目指すべき将来像や、その実現に向けた戦略・地区別の方向性を描き、より一層魅力あるまちづくりを推進**します。

【目標年次】

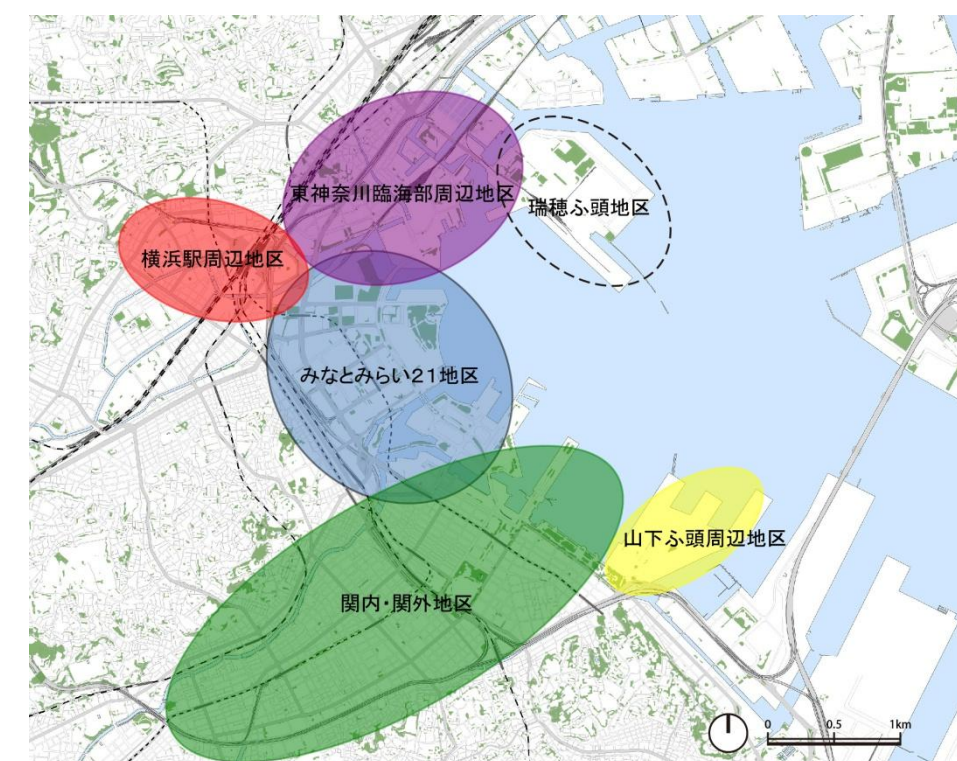
2050年（※第一段階の目標年次は2025年とします。）

【計画の範囲】

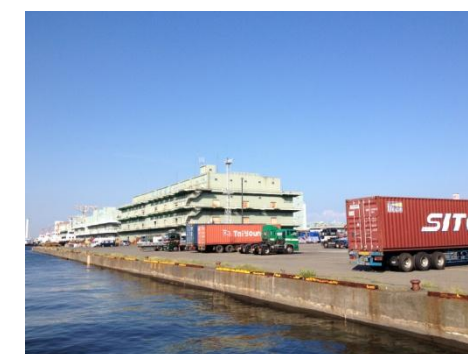
- 横浜駅周辺地区、みなとみらい21地区、関内・関外地区、山下ふ頭周辺地区、東神奈川臨海部周辺地区の5地区を計画の範囲とします。

【考え方】

将来の社会状況の変化に対応し、国内外から選ばれる都市ヨコハマをつくるうえで、都心臨海部の重要性は更に高まります。そのため、横浜駅周辺地区、みなとみらい21地区、関内・関外地区といった従来の横浜都心に隣接し、かつ、横浜最大の資源である「港」に面しているなど、都心に必要な新たな機能や施設の受け皿となるポテンシャルを有する東神奈川臨海部周辺地区と山下ふ頭周辺地区の2地区を新たに加えます。



※ 瑞穂ふ頭地区については、都心臨海部に隣接し広大な面積を有しますが、米軍と返還合意されていないため、返還後の活用について、今後検討します。



2. 都心臨海部再生マスタープランの位置づけ

都心臨海部再生マスタープランは、各地区で取り組まれてきたこれまでのまちづくりを前提としながら、平成 22 年 3 月に提言された「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」を受けるとともに、近年における**国家戦略プロジェクト**や、**現在策定中の計画**等を踏まえ、都心臨海部における市の将来構想として策定するものです。

横浜市基本構想（長期ビジョン）（平成 18 年 3 月）
横浜市中期 4 か年計画 2014～2017（平成 26 年 12 月）

上位計画や既定計画、構想等

- 東神奈川臨海部周辺地区再編整備計画（平成 16 年 3 月）
 - 「ナショナルアートパーク構想」提言書（平成 18 年 1 月）
 - 横浜市水と緑の基本計画（平成 18 年 12 月）
 - みなとみらい 21 街づくり基本協定（平成 21 年 4 月 改定）
 - エキサイトよこはま 22（平成 21 年 12 月）
 - 関内・関外地区活性化推進計画（平成 22 年 3 月）
 - 「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」提言書（平成 22 年 3 月）
 - 横浜市都市計画マスタープラン（平成 25 年 3 月 全体構想改定）
 - 成長分野育成ビジョン（平成 26 年 3 月）
 - 美しい港の景観形成構想（平成 26 年 3 月）
 - 横浜市みなとみらい 21 地区スマートなまちづくり方針（平成 26 年 3 月）
 - 新市庁舎整備基本計画（平成 26 年 3 月）
 - 港湾計画（平成 26 年 12 月 改訂）
- など

国家戦略プロジェクト

- 次世代エネルギー・社会システム実証地域（平成 22 年 4 月）
- 環境未来都市（平成 23 年 12 月）
- 国際戦略総合特区（平成 23 年 12 月）
- 特定都市再生緊急整備地域（平成 24 年 1 月）
- グローバル MICE 戦略都市（平成 25 年 6 月）
- 国家戦略特別区域（平成 26 年 5 月）

現在策定中の計画

- 山下ふ頭再開発の基本計画（平成 27 年 策定予定）

都心臨海部再生マスタープラン

<各地区の近年のまちづくりの状況>

横浜駅周辺地区

鉄道 6 社 8 路線が乗り入れ、一日約 200 万人の乗降客数を数える日本有数のターミナル駅である横浜駅を中心とする地区です。現在は、駅周辺建物等の老朽化が進行しており、平成 21 年に策定された「エキサイトよこはま 22」に基づき、国際都市の玄関口にふさわしいまちづくりを進めています。



みなとみらい 21 地区

横浜の二つの都心部（関内・伊勢佐木町地区、横浜駅周辺地区）を一体化し、横浜の自立性の強化等を目的に整備された新しい街です。業務・商業機能のほか、中核的 MICE 拠点であるパシフィコ横浜があり、観光地としても人気が高く、国内外から多くの人々が訪れています。



関内・関外地区

開港以来の歴史を持つ市街地ですが、近年は業務・商業機能が相対的に低下しつつあります。そのため、平成 22 年に「関内・関外地区活性化推進計画」を策定し、地区の課題解決に向けた 12 の戦略に基づくまちづくりが進められています。



山下ふ頭周辺地区

昭和 28 年に着工、昭和 38 年に完成したふ頭で、上屋や倉庫が数多く立地しており、近年では本牧ふ頭など主要ふ頭を補完する物流機能を担っています。現在は、都心臨海部における新たな賑わい拠点の形成に向けて、再開発を推進するため、基本計画の検討を進めています。



東神奈川臨海部周辺地区

平成 16 年に策定した「東神奈川臨海部周辺地区再編整備計画」に基づくまちづくりが進められており、近年では、山内ふ頭周辺地区（通称コットンハーバー）の開発が進められました。神奈川台場の遺構や横浜市中心卸売市場が立地しており、現在は、駅周辺の再開発や面的整備の検討が進められています。



3. 都心臨海部の重要性

■ 我が国における横浜・都心臨海部

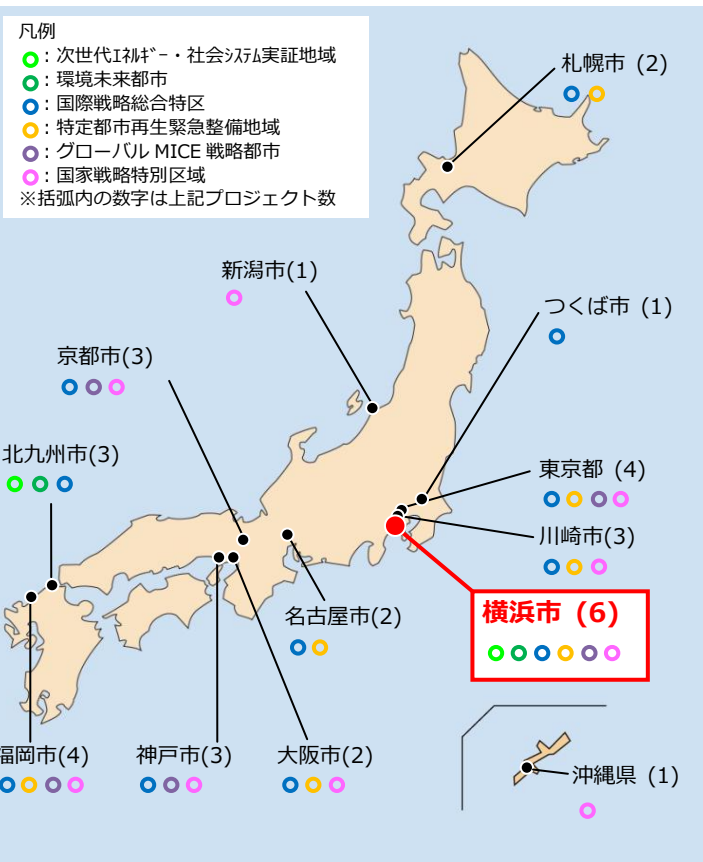
横浜市は、我が国において複数の国家戦略プロジェクト※1 に指定される重要度の高い都市であり、日本経済をけん引する「**国際的なビジネス拠点**」をはじめ、「**環境**」、「**MICE**」など、都市の新しい機能、役割について、我が国を先導する役割を担っています。

また、近年では、東アジア域内の相互理解の促進や文化の国際発信力の強化に取り組む「**東アジア文化都市**」の初代表都市に選定されるなど、文化面においても、国際的な注目を集めています。

我が国を先導する先進的なまちづくりが求められています。

※1：次世代エネルギー・社会システム実証地域（平成22年4月）、環境未来都市（平成23年12月）、国際戦略総合特区（平成23年12月）、特定都市再生緊急整備地域（平成24年1月）、グローバルMICE戦略都市（平成25年6月）、国家戦略特別区域（平成26年5月）

【主要都市における国家戦略プロジェクト指定状況】



■ 首都圏における横浜・都心臨海部

首都圏は、我が国における最重要な圏域となっています※1。

その中で横浜市は、東京から中部・関西圏へつながる国土軸上に位置し、また、業務核都市※2 として重点的に整備が進められ、**我が国で東京に次ぐ第二の都市**として発展しています。

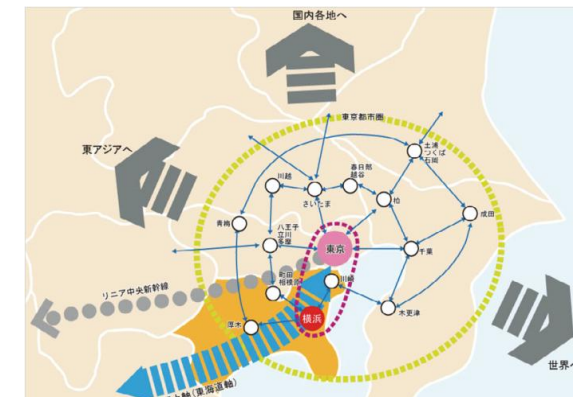
一方で、通勤・通学で横浜市民の東京へ向かう割合は依然高く※3、今後、2020年のオリンピック・パラリンピック開催に向けた環境整備が進展する中で、東京への一極集中が更に高まる可能性があります。

また、将来的な中央新幹線（リニア）整備等に伴う大きな都市構造の変化についても、横浜・都心臨海部としての対応が必要となると考えられます。

東京との連携・役割分担を意識しながら、横浜の優位性や特性を生かした、独自の魅力を高めていくことが必要となります。

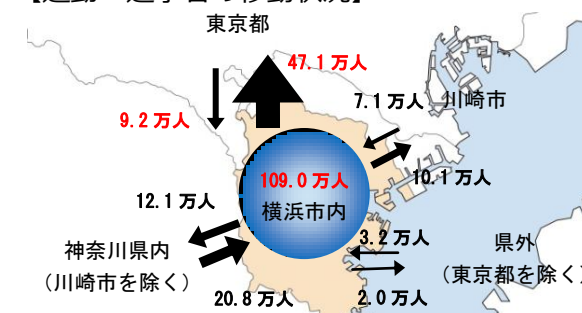
※1：平成25年10月1日時点で、首都圏は、全国における人口の約34.2%を、また、平成22年度時点で、GDP(国内総生産)の約38.0%のシェアを占めています。（平成25年度 首都圏整備に関する年次報告より）
 ※2：平成21年時点で、横浜市は、業務核都市内における事業所数の約30.2%、従業員の約30.9%とトップのシェアを占めており、首都圏において、東京に次ぐ業務機能の集積地となっています。（平成25年度 首都圏整備に関する年次報告より）
 ※3：東京に通勤・通学で向かう約47.1万人に対して、東京から横浜市内に向かう人は約9.2万人となっています。（平成22年度 国勢調査より）

【首都圏における横浜市の位置づけ】



横浜市都市計画マスタープラン全体構想（平成25年）より

【通勤・通学者の移動状況】



平成22年国勢調査 従業地・通学地集計結果より作成

■ 横浜における都心臨海部

都心臨海部は、横浜開港の地であり、現在でも数多くの市民や観光客が訪れる**港町横浜を象徴するエリア**です。

また、**横浜経済の中心を担うエリア**でもあり、面積は市全体の約2.2%でありながら、事業所数は市全体の約14.6%、従業員数は市全体の約22.6%、年間商品販売額は市全体の約30.6%を占め、**市全体の発展をけん引する役割を担っています**。また、近年では**都心居住の動きが活性化**し、人口密度は、市全体に比べ、約1.4倍の約117人/haとなっています。

一方で、概ね過去10年間で、年間商品販売額や売場面積1㎡あたりの販売額が大きく落ち込んでいる状況があります。

都心臨海部は、現在でも人口や事業所数、従業員数が伸びており、これまでのまちづくりが一定の成果をあげている状況にあります。その一方で、近年では、年間商品販売額が減少しており、対応に取り組む必要があります。

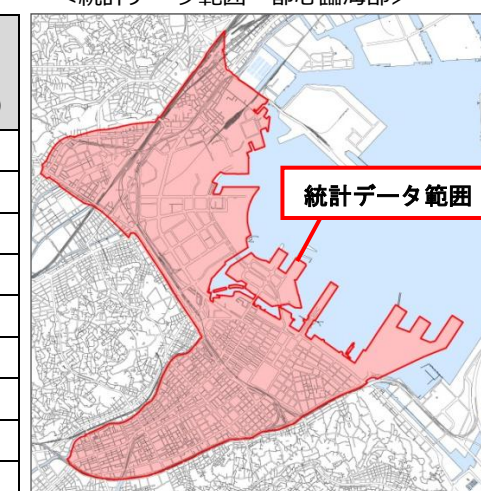
<都心臨海部の概ねの位置>



【都心臨海部及び横浜市の統計データ】

	都心臨海部	概ね過去10年間の推移(都心臨海部)	横浜市	都心臨海部が占める割合(都心臨海部/横浜市)
面積	約942ha	—	約43,738ha	約2.2%
人口*1	約11万人	約3万人 増	約370万人	約3.0%
人口密度	約117人/ha	約1.4倍 増	約85人/ha	約1.4倍
世帯数*1	約7万世帯	約2万世帯 増	約170万世帯	約4.1%
外国人人口*2	約7千人	約500人 増	約53千人	約13.2%
事業所数*3	約1万8千社	約600社 増	約12万3千社	約14.6%
従業員数*3	約35万人	約7万人 増	約155万人	約22.6%
年間商品販売額*4	約3.0兆円	約1.1兆円 減	約9.8兆円	約30.6%
売場面積*4	約53万㎡	約11万㎡ 増	約288万㎡	約18.4%

<統計データ範囲 都心臨海部>



*1：横浜市住民基本台帳（平成15年1月31日、平成25年1月31日）より
 *2：国勢調査（平成12年、平成22年）より
 *3：事業所・企業統計調査（平成13年）、経済センサス基礎調査（平成21年）より
 *4：経済産業省 商業統計調査（平成9年、平成19年）より

4. 都心臨海部の特性

■ 都心臨海部のこれまでのまちづくり

1859年の開港以来、港と共に発展を遂げてきた都心臨海部では、様々な社会状況の変化の中で、その時代の要請に応えられるよう『進取の気概』を持ち、積極的に新しいものを取り入れていく、先進的で横浜らしいまちづくりを展開してきました。

【横浜港開港（1859年）～】

<我が国の先端をいく国際的な港湾都市として発展>

開港を契機に、海外諸国との交易の中心地となった横浜は、世界中から集まる人・モノ・カネ・情報・文化であふれ、文明開化の名の元に、近代日本の成長をけん引する国際的な港湾都市として、目覚ましい発展を遂げてきました。中でも、その中心であった現在の関内地区では、外国人居留地の誕生など、国際性豊かな市街地が形成されるとともに、外国人技術者による近代的な技術の導入等が進められ、時代の先駆けとなるまちづくりが進められてきました。

また、社会状況の変化の中で対面した様々な困難な時期においても、将来に向けたより新しいまちづくりが進められてきました。

【横浜に関連する社会状況】

- 横浜港開港、生糸を中心とした横浜貿易の発展
- 新橋・横浜間に鉄道が開通
- 京浜工業地帯の形成
- 関東大震災や、横浜大空襲、接収 など

【まちづくりの取組】

- 外国人居留地の整備
- 鉄道・電信・ガス灯・上水道・下水道など、当時の最先端の技術の導入
- 用途地域制の先駆けとなる地区指定の導入
- 山下公園の整備（関東大震災の復興事業） など



異人商館での交流 ※出典1



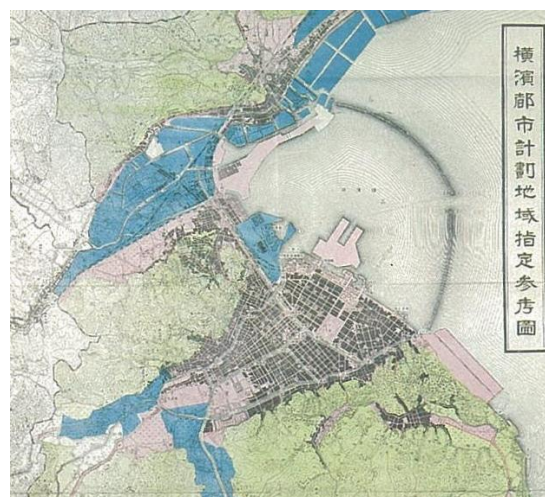
近代化する街の風景 ※出典2



貿易船が出入する大棧橋 ※出典3



山下公園の整備 ※出典4



横浜市計画地域指定参考図(部分)大正11年頃 ※出典5

【新しい都市づくりの構想（六大事業※を含む）の発表（1965年）～現在】

<港湾機能の質的転換により、港に開かれた新しい横浜都心部を形成>

高度経済成長期を迎える一方で、様々な都市問題が発生する中、現在の横浜市の骨格をつくる「六大事業※」の推進が提案され、その中の一つである「都心部強化事業」により、港湾機能の質的転換が図られ、当時分断されていた関内・関外地区と横浜駅周辺地区の二つの核が一体化した新しい横浜都心部が形成されました。

また、機能性と美的性・人間性を両立させる「都市デザイン手法の導入」や、「文化芸術」の創造性をまちづくりに生かす「創造都市・横浜」の取組など、時代を先駆けるまちづくりが進められています。

【横浜に関連する社会状況】

- 高度経済成長と都市問題の発生
- 東海道新幹線の開通
- 東京のベッドタウン化
- 市街地のスプロール化
- 港湾物流の高効率化

【まちづくりの取組】

- <1960年代後半～> 都心部強化事業（六大事業※の内の一）、都市デザイン手法の導入
- <1970年代～> 横浜方式による街並み誘導、歴史を生かしたまちづくりの実施
- <1980年代～> みなとみらい21事業着工、横浜博覧会（YES'89）開幕
- <1990年代～> パシフィコ横浜、横浜ランドマークタワーオープン
- <2000年代～> 横浜トリエンナーレの開催、創造都市・横浜 など



緑豊かな都市軸の創出



公共空間のデザイン



歴史的建造物の活用



都心部強化事業により一体化した都心部

Michael LANDY, Art Bin, 2010/2014 Photo: KATO Ken
Photo courtesy of Organizing Committee for Yokohama Triennale
ヨコハマトリエンナーレ 2014

※ 都心部強化事業、金沢地先埋立事業、港北ニュータウン建設事業、高速鉄道（地下鉄）建設事業、高速道路網建設事業、横浜港ベイブリッジ建設事業の6事業

4. 都心臨海部の特性

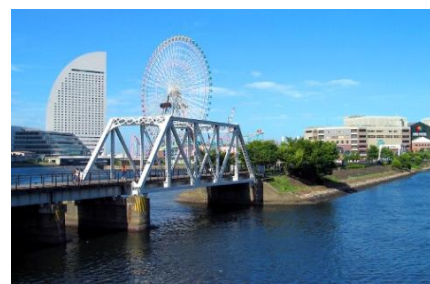
■ 世界から人々を惹き付けるまちの資源

都心臨海部には、時代ごとの先進的なまちづくりの積み重ねにより、「**多様な人々を惹き付ける横浜独自の資源**」が築かれてきました。

資源① 本物が残る港町横浜の歴史・文化

横浜港の開港以来、横浜の中心地として発展を遂げてきた都心臨海部には、港町ならではの歴史・文化が息づいており、街中には、当時の面影を色濃く残す歴史的建造物や土木産業遺構などが点在し、横浜の歴史や物語を伝える横浜ならではの風景を構成しています。また、異国情緒あふれる飲食店やバーなどが残り、開港の地ならではの国際的な雰囲気が感じられるまちとなっています。

これらは、横浜らしさを語り継ぐ貴重な資源として、文化財制度とも連携しながら、まちづくりの中で保存・活用が進められており、現在でも多くの人々に親しまれています。



開港時の雰囲気を語り継ぐ
汽船道



多くの人々が訪れる赤レンガ倉庫



異国情緒あふれる飲食店

資源② 港・水際線を身近に感じる豊かな都市空間

港と市街地が隣接する都心臨海部ならではの立地特性を生かし、まちづくりの中で、水際線を開放し、公園や緑地、パブリックスペース等の積極的な整備や、港を意識した美しいスカイラインの形成に取り組んできました。その結果、都心と港・水際線がつながる都心臨海部固有の空間・景観は、横浜ブランドを構成する大きな魅力として広く認識されています^{※1}。また、街中でも、地域の魅力と個性を生かした都市デザインの取組が展開され、美しさ、楽しさが感じられる環境豊かな都市空間が形成されています^{※2}。

※1：“横浜市の魅力”の第1位が「海や港が身近にある」（平成25年度 横浜市民意識調査より）

※2：“横浜市の魅力”の第1位が「街並み・景観」（平成24年横浜市に関する意識・生活行動実態調査より）



Photo by Hideo MORI
都心臨海部の目前に広がる港・水際線



水際の都市デザイン

※出典6



元町商店街の魅力的な街並み

資源③ コンパクトに集約された多様な都心機能

みなとみらい21地区や横浜駅周辺地区では、国際的な企業が立地する業務拠点をはじめ、広域的な商業拠点、国内有数の大規模コンベンション施設など、横浜経済をけん引する都心機能がコンパクトに集積しています。

また、関内・関外地区においても、古くからの地場産業や、個性豊かな界限など、都市の活動を支える様々な機能が集積しており、近年では特に、港町ならではの個性的で魅力ある資源を生かした文化芸術活動が展開され、都市の新しい価値や魅力の創出が図られています。



国際的な企業が立地する業務拠点



国内随一のMICE施設であるパシフィコ横浜



広域から人々が集まる商業施設

資源④ 横浜ならではの賑わいと活発な市民活動

開港の地として、様々な人・モノ・文化を取り入れてきた都心臨海部では、まちに誇りや愛着を持ち、地域が主体的にまちづくりに取り組む風土が培われており、横浜ならではの様々な市民活動や、まちの魅力を高めるエリアマネジメント活動が数多く展開されてきました。その結果、個性豊かで魅力的な商店街や、年間を通じて様々なイベントが開催される、活気あふれるまちがつけられています。

また、全国第二の人口規模を誇る「横浜」の中心地として、多くの人々が集まり、活動する場となっており、近年では、アーティスト・クリエイターの集積が進んでいます。



イベントの開催



アーティスト・クリエイターの活動



Photo by Yasuyuki Kasagi
アートによるまちの再生

※出典7

4. 都心臨海部の特性

■ 恵まれた立地特性

都心臨海部は、羽田空港へのアクセス性が高く、我が国の中枢的機能を担う首都東京や、成長分野の研究開発拠点である京浜臨海部に近接する**優れたビジネス環境を有する**とともに、美しい海や雄大な山々といった豊かな自然体験や、我が国ならではの文化体験など、**健康的で、生活に潤いをもたらす様々な資源を有した地域の中心に位置しており、両者の魅力を享受できる立地特性を有しています**。これらの地区との連携を図ることで、様々なビジネス展開をはじめ、観光客の呼び込みや外国人就業者が好む充実したライフスタイルの提供など、都心臨海部の魅力向上にもつながります。

我が国ならではの体験ができる観光地 ＜箱根、富士山エリア＞

我が国ならではの文化である温泉をはじめとする様々な観光名所・資源が集積し、観光地・保養地として人気の高い箱根へ足を運びやすい立地にあります。

また、我が国を象徴する風景として、国内外に広く知られており、富士山にもアクセスしやすい立地にあります。



国内外から多くの入客を惹きつける箱根



世界遺産に登録された富士山

豊かな自然体験や文化体験ができ、生活に潤いをもたらしてくれる地域 ＜湘南、逗子、丹沢、鎌倉エリア＞

美しいビーチが広がる湘南や、クルージングなどのマリレジャーの拠点である逗子、様々な山のレジャーが楽しめる丹沢など、健康的なアクティビティを楽しめる地域へのアクセス性に優れています。

また、港町とは異なる歴史を体験でき、近年では横浜市の称名寺とともに歴史的建造物群の世界遺産登録を目指している、古都・鎌倉へのアクセス性にも優れています。



美しいビーチが広がる湘南



マリレジャーの拠点である逗子



豊かな自然に触れられる丹沢



古都の歴史が残る鎌倉



中枢的機能を担う首都東京 ＜東京、品川、渋谷、新宿＞

日本の中枢業務機能が集積し、国内の広域ターミナル駅である東京駅や中央新幹線（リニア）開通により関西方面への広域交通ターミナルとなる品川、様々なエンターテイメントが集い、大人も楽しめるまちとして機能更新が進む渋谷、日本有数のビジネスエリアである新宿など、東京を代表するエリアに約30分でアクセスできる立地にあります。



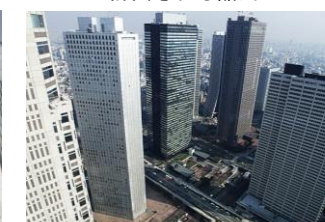
中枢業務機能が集積する東京



中央新幹線（リニア）整備が計画される品川



エンターテイメントが集い機能更新が進む渋谷



日本有数のビジネスエリアである新宿

研究開発機能の集積拠点 ＜京浜臨海部＞

京浜工業地帯として発達した京浜臨海部は、生産機能のほか、環境やライフサイエンスなど今後の成長が見込める分野の研究開発機能が集積しています。



研究開発機能の集積拠点 京浜臨海部

世界とつながる国際空港 ＜羽田空港＞

国際化・24時間化に伴い、就航便数の増加が進められ、世界への玄関口である羽田空港へ約30分でアクセスできる立地にあります。



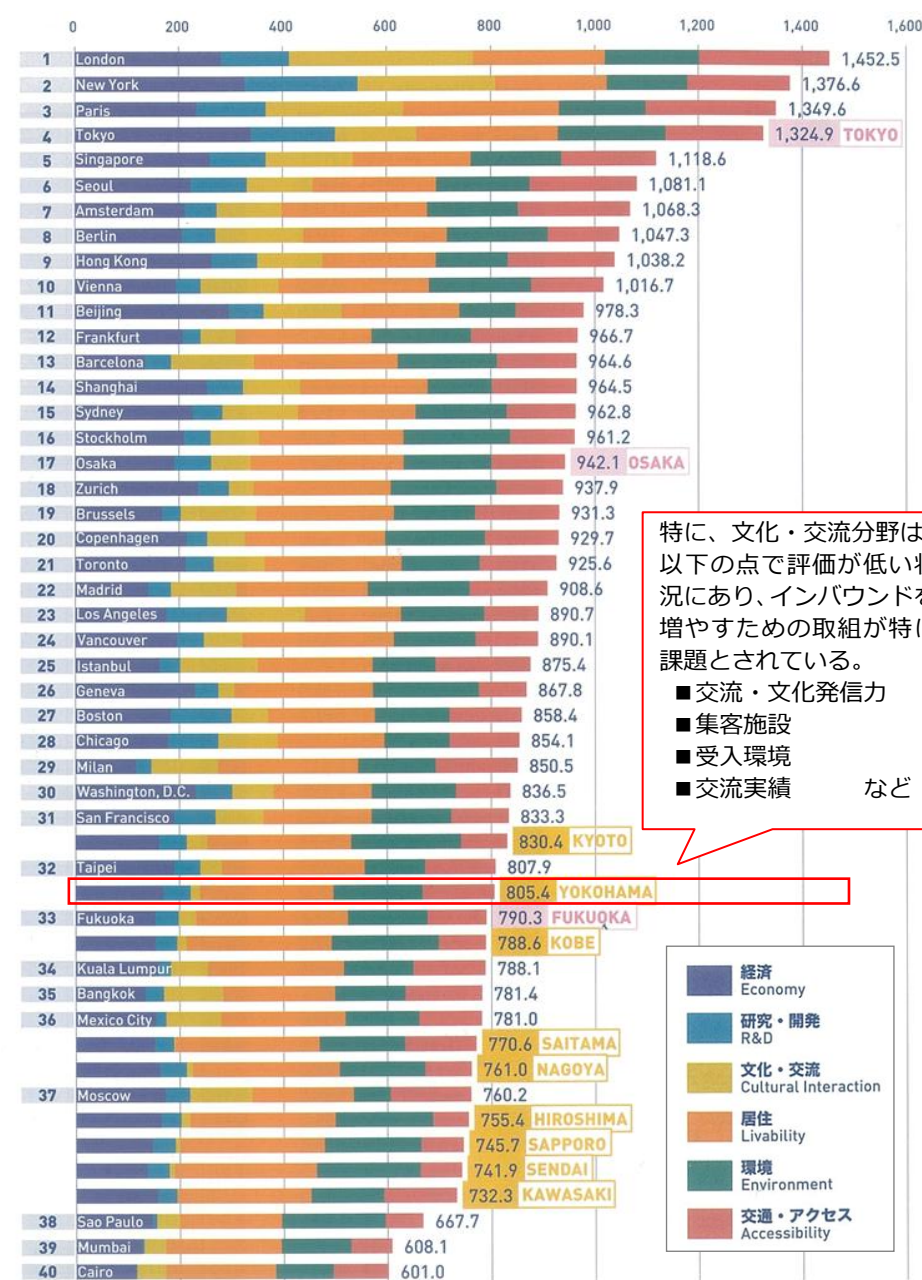
国際化が進む羽田空港

4. 都心臨海部の特性

■ 世界都市と比較した横浜・都心臨海部

周辺環境に恵まれ、様々なまちの資源が集積する横浜・都心臨海部ですが、森記念財団の世界都市総合力ランキング（Global Power City Index YEARBOOK 2012）※では、世界を代表する主要な40都市と比較する中で、**横浜の都市総合力は世界第32位（Taipei）相当**と位置づけられています。

分野別評価では、他都市と比較して、『居住』『環境』分野の評価が高い一方で、『経済』『文化・交流』分野は十分な評価は得られていない状況にあります。



特に、文化・交流分野は、以下の点で評価が低い状況にあり、インバウンドを増やすための取組が特に課題とされている。

- 交流・文化発信力
- 集客施設
- 受入環境
- 交流実績 など

<参考> 海外の先進的なまちづくり

- 世界を代表する主要な都市の中で、横浜と同様に港を抱えること、『経済』『文化・交流』分野における評価の高いことの2点から5つの都市を抽出し、近年のまちづくりの取組や特徴をまとめると、以下のようになります。

ロンドン

【ランキング1位、経済分野で4位、文化・交流分野で1位】

国際的なビジネスだけでなく、世界有数の文化センターとして、創造産業の振興が進められています。近年では、2012年のオリンピックに併せ、大会期間中の大規模なアート祭典の開催や、英国文学をテーマにした国際演劇祭の開催など、英国の文化芸術を生かした国際的な文化プログラムが展開されています。

近代的建物と歴史的建物が共存する街中の風景
世界最大の博物館・大英博物館

ニューヨーク

【ランキング2位、経済分野で2位、文化・交流分野で3位】

アメリカ最大の都市であり、世界の金融センターとして、国際的なビジネスが展開されているほか、商業、文化、ファッション、スポーツ、エンターテインメントなどの機能が集約化されており、世界からの脚光を浴びています。近年では、民間組織によるパブリックスペースを活用したまちづくりが進められています。

マンハッタンの風景（左：ダウントウン、中央タイムズスクエア、右パブリックスペース）

シンガポール

【ランキング5位、経済分野で6位、文化・交流分野で5位】

経済・物流・人材が交流するハブ都市としてアジアの国際ビジネス・交流の中心の拠点の一つとされています。マーケティング戦略として、同国の主要産業分野の重点化を図るとともに、IR（統合型リゾート）の導入や国際会議・展示会等のビジネスイベント（MICE）の誘致・開催を積極的に進めています。

マリーナ・ベイの風景
マリーナ・ベイ・サンズ（IR）

バルセロナ

【ランキング13位、文化・交流分野で6位】

世界遺産が集積する創造都市として、歴史・文化芸術を生かし、文化芸術創造都市としての都市再生が進められています。

歴史・文化芸術を軸としたまちづくり

シドニー

【ランキング15位、文化・交流分野で13位】

オペラハウスに代表されるウォーターフロントエリアの開発により、世界で最も美しい都市の一つとされ、多くの人々が訪れています。

オペラハウスの美しい景観

- 経済分野の評価の高い都市（ニューヨーク、ロンドン、シンガポール）
 - ① 国際的なビジネスへの対応
 - ② 都心機能の多様化・複合化
 - ③ MICEによる国際競争力強化の展開
- 文化・交流分野の評価が高い都市（ロンドン、ニューヨーク、シンガポール、バルセロナ）
 - 上記の取組に加え、④ 歴史・文化芸術やエンターテインメントなど、世界から注目を集める取組を実施

※ 経済、研究・開発、文化・交流、居住、環境、交通・アクセスの6分野から都市の総合力を比較したランキング

5. 都心臨海部強化に向けた考え方

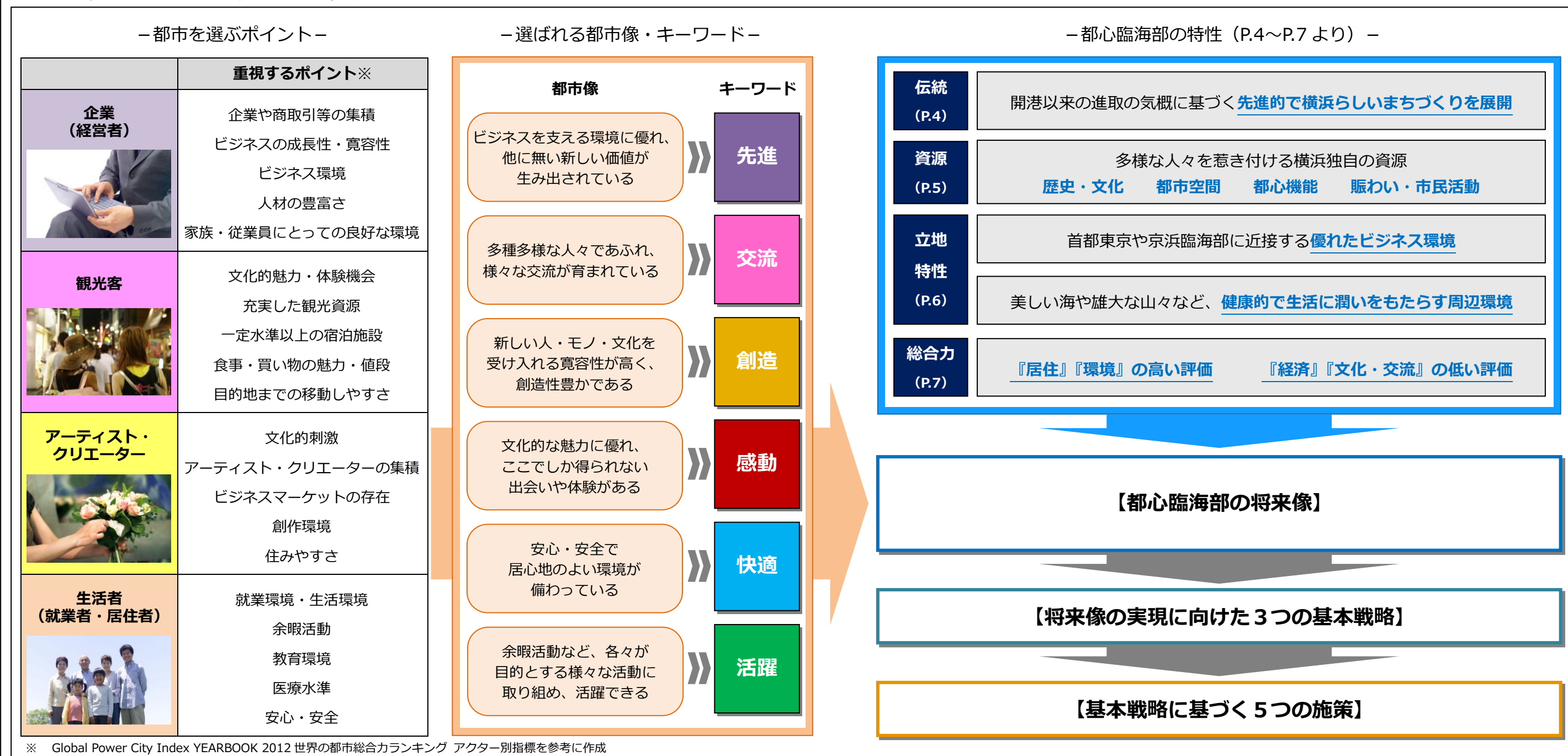
■ 2050年に向けたまちづくりの視点

2050年に向けては、人口減少や超高齢社会の到来など、右肩上がりであった成長の時代から転換期を迎え、生産年齢人口の減少など、現在と比べ**都市の活力が低下**することが想定されます。また、情報通信技術の飛躍的な進歩や交通利便性の向上から、より良いビジネス・生活の場として**人々が都市を選択する**機会が増え、魅力高い都市に<人>が集中する一方で、魅力に劣る都市は淘汰される、**都市間競争が更に高まる**ことが予想されます。

これらの社会状況を踏まえると、2050年に向けたまちづくりにおいて**「人々に選ばれる都心となる」**ことが、横浜の活力を高めていく上で重要となります。選ばれる都心となり、<人>が集積することで、<モノ> <カネ（投資）> <情報>が集まりやすくなり、更なる発展が見込まれるとともに、周辺地域や郊外部へも「就業地・居住地としての価値向上」や「ライフスタイルの充実」など、相乗効果・波及効果も期待されます。

そのため、都心臨海部では2050年に向け、これまでのまちづくりで育まれてきたポテンシャルを生かし、横浜独自の魅力を更に伸ばすとともに、人々に選ばれるためのまちづくりを戦略的に展開し、活力ある都心の形成を目指します。また、それに向けた「将来像」を描くとともに、実現に向けた「基本戦略」と「施策」に基づくまちづくりを展開していきます。

<人々に選ばれるまちづくりに向けた考え方>



※ Global Power City Index YEARBOOK 2012 世界の都市総合ランキング アクター別指標を参考に作成

5. 都心臨海部強化に向けた考え方

■ 都心臨海部の将来像

2050年に向けた社会状況の変化へ対応し、「人々に選ばれる都心」となるため、都心臨海部の目指すべき将来像を以下のように定めます。

先進	横浜発のイノベーションを生み出す先進都心
	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界が注目する先進的なまちづくりにより、様々な人材が集積し、横浜発のイノベーションが生まれている。 ● 医療、環境・エネルギーなど、次の時代の横浜の発展をけん引する分野の上場企業・グローバル企業の本社が集積し、新たなビジネス拠点が形成されている。 ● Y-PORT 事業※等による海外への都市づくり支援や、市内企業による海外インフラビジネスへの展開が進んでいる。
	 <p>※ 横浜の資源・技術を活用した公民連携による国際技術協力</p>


交流	国内外から多くの人々が訪れ・働き・遊び・暮らす国際交流都心
	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光・MICE 機能の強化・拡充により、国際会議や展示会等が多数開催されるアジア随一の MICE 拠点都市として、世界中から認知されている。 ● 魅力的な水際線への交通利便性が向上し、昼夜平休問わず国内外から幅広い世代の観光客が訪れ、賑わっている。 ● 横浜のこれまでの経験に基づく先進的な課題解決への取組が世界に発信され、アジアの更なる発展に貢献している。
	

創造	文化芸術により、横浜の新しい価値や魅力を高め、発信する創造都心
	<ul style="list-style-type: none"> ● 横浜で活躍するアーティスト・クリエイターとの交流により、創造性に満ちた市民力が更に高まっている。 ● アーティスト・クリエイターの活躍する場が増え、横浜経済の一翼としてユニークなポジションを築いている。 ● アーティスト・クリエイターの活動を通して、街中に創造性にあふれた雰囲気醸し出され、横浜ならではの魅力としてプレゼンスを高めている。
	 <p>Photo by Yasuyuki Kasagi ※出典7</p>

【2050年の将来像】

世界が注目し、横浜が目的地となる新しい都心 ～都心臨海部を中心とした新しい横浜ライフの実現～

感動	開港以来の歴史・文化の中で、アクティブな都心ライフを楽しむ感動都心
	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史が色濃く息づく建物や街並みが大事にされ、それに触れる横浜ならではの体験は、人々に感動を与え続けている。 ● 都心機能がコンパクトに集積し、新しい魅力とローカルな魅力が融合する All In One の環境の中で、一人一人が充実したワークスタイル・ライフスタイルを実現している。 ● 横浜独自の芸術体験やイベント、ショッピング、食事など、一日一日が特別と感じられる環境が整っている。
	 <p>※出典6</p>

快適	豊かな水辺や緑、美しい都市デザインに包まれた人間的で開放的な快適都心
	<ul style="list-style-type: none"> ● 水辺や緑、風といった自然を身近に感じられ、安心・安全で誰にとっても居心地の良い都市空間が創出されている。 ● まちづくりに美的・人間的価値等を取り入れた横浜の都市デザインが市民に親しまれ、人々を惹き付けている。 ● 環境まちづくりや都市デザインなど、進取の気概に基づく新しい挑戦が、国内外から高く評価され、数多くの視察団が訪れるなど、注目を浴び続けている。
	 <p>※出典6</p>

活躍	横浜の中心地として、市民の持つ夢や目標を実行・実現する活躍都心
	<ul style="list-style-type: none"> ● 優れた音楽やアート、スポーツ等を身近に体感できる環境で、次の世代を担う子どもたちの夢や志がはぐくまれ、様々な可能性を試せるまちとなっている。 ● 子どもからお年寄り、外国人まで、様々な市民活動が活性化し、横浜のまちづくりを支える大きな力となっている。 ● 都心臨海部を舞台とした多様な活動・交流が生まれる中で、市民の横浜への愛着や誇りが深まっている。
	

5. 都心臨海部強化に向けた考え方

■ 将来像の実現に向けた基本戦略・施策の展開

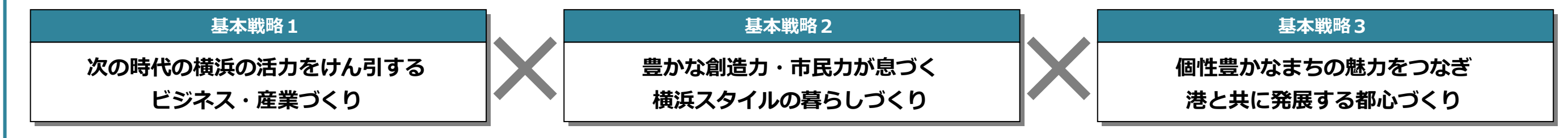
「世界が注目し、横浜が目的地となる新しい都心」の実現に向け、以下の3つの「基本戦略」と、それに基づく5つの施策に取り組みます。

【2050年の将来像】

世界が注目し、横浜が目的地となる新しい都心

～都心臨海部を中心とした新しい横浜ライフの実現～

【将来像の実現に向けた3つの基本戦略】



【基本戦略に基づく5つの施策】

<p>施策① 【空間・拠点】</p> <p style="text-align: center;">世界中の人々を惹き付ける 空間・拠点の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 横浜経済を支えるビジネス・生活環境の整備 ■ 都市デザインによる創造性豊かな空間づくり ■ 人々を惹き付ける新たな拠点づくり 	<p>施策② 【回遊性】</p> <p style="text-align: center;">まちを楽しむ 多彩な交通の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 回遊性を高めるネットワークの強化： 主要な交通インフラ、歩行者・パーソナルモビリティ 	<p>施策③ 【環境】</p> <p style="text-align: center;">世界を先導する スマートな環境の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 海を意識した水・緑・風の環境づくり ■ 最先端技術等の導入による環境負荷低減 	
	<p>施策④ 【防災・減災】</p> <p style="text-align: center;">災害に強い 都心臨海部の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 防災・減災の多重化による安全・安心づくり 	<p>施策⑤ 【コミュニティ】</p> <p style="text-align: center;">都市活動の担い手が活躍する 仕組み・体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 多様な担い手の参画による新しい都心づくり 	

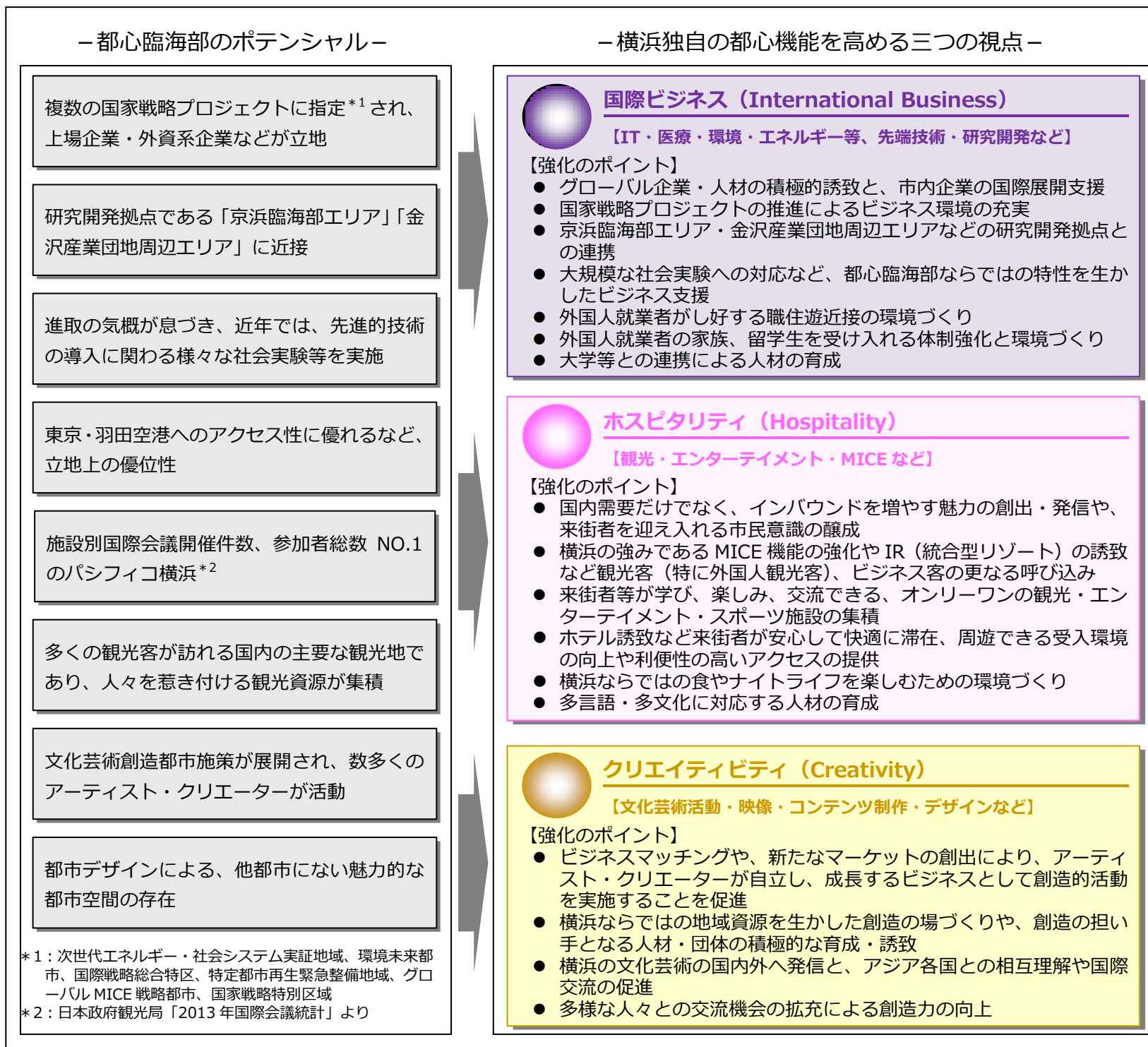
5. 都心臨海部強化に向けた考え方

■ 基本戦略 1 次の時代の横浜の活力をけん引するビジネス・産業づくり

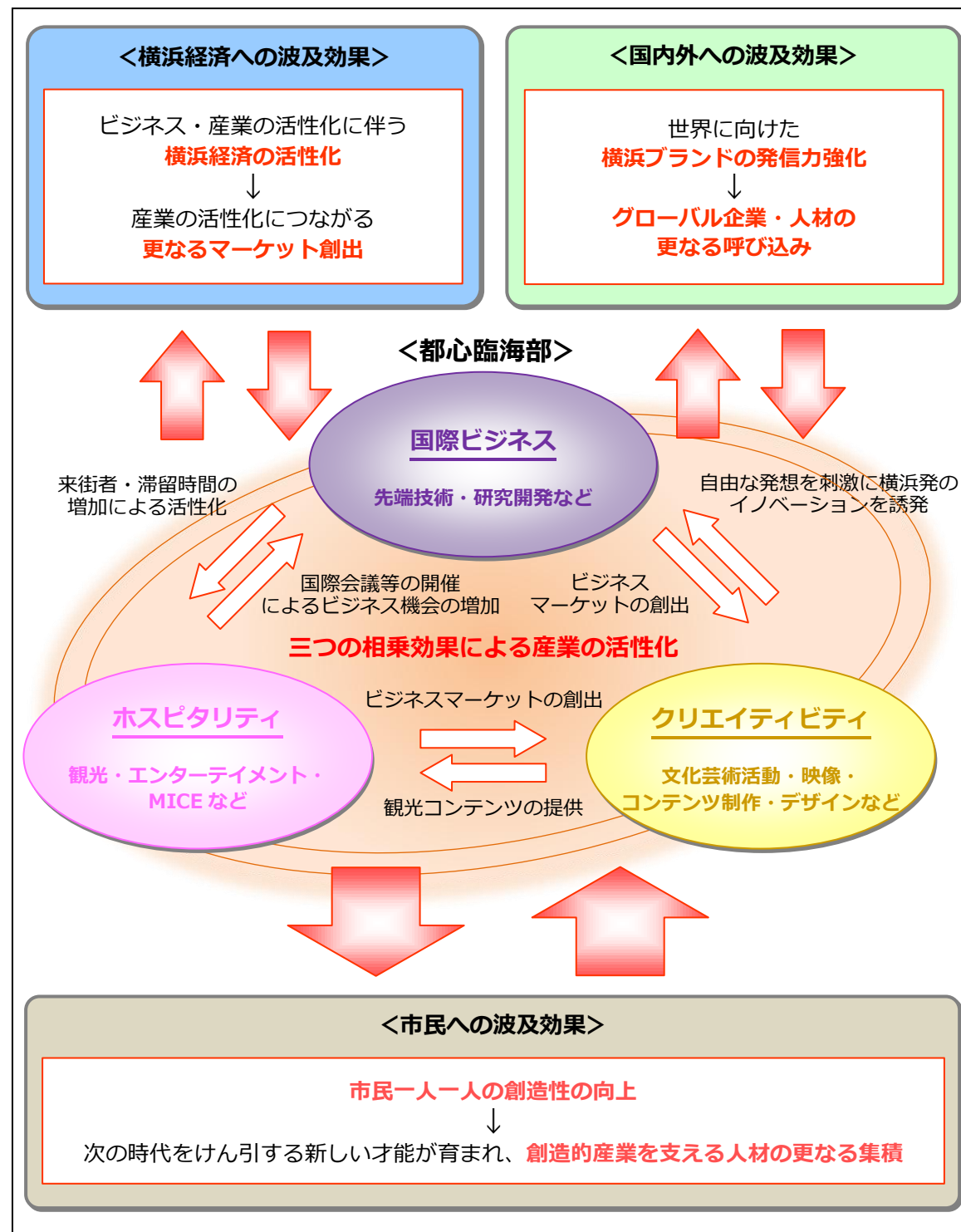
都心機能の中心を担う業務・商業機能に加え、都心臨海部のポテンシャルを生かし、「国際ビジネス」、「ホスピタリティ」、「クリエイティビティ」の三つの視点から、都心機能の強化に取り組むことで、横浜発のイノベーションとなるビジネス創出や、創造的産業の振興など、次の時代の横浜の活力となるビジネス・産業の活性化を図ります。

また、時代の先駆けとなる先進的な情報通信技術を活用するとともに、産業のグローバル化に対応するため、産学連携の推進やインターナショナルスクールの整備、教育面の充実などに取り組み、様々な産業を支える高度な人材育成に取り組めます。あわせて、この150年間に飛躍的な発展を遂げてきた横浜・都心臨海部の経験や様々な社会問題・都市問題に対する先進的な取組を、アジア諸国をはじめ、世界各国にプロモーションしていきます。

<都心臨海部のポテンシャル強化に向けた視点>



<都心機能強化による相乗効果・波及効果のイメージ>



5. 都心臨海部強化に向けた考え方

■ 基本戦略2 豊かな創造力・市民力が息づく横浜スタイルの暮らしづくり

多くの横浜市民が暮らす都心臨海部には、**様々なバックグラウンドを持つ市民が集まっており、それ自体がまちに人を惹き付ける資源**となっています。また、文化芸術やスポーツ、エンターテインメントなど、**人と人をつなぎ付ける資源も集積**しています。これらの特性を生かし、**多様なコミュニティの育成や、活動・交流の更なる活性化**を図ることで、**豊かな「創造力」と「市民力」が息づく、都心臨海部ならではのライフスタイル**を実現します。

<都心臨海部のポテンシャルと都心ならではのコミュニティの活性化に向けた考え方>

－都心臨海部のポテンシャル－

ビジネスマンから研究者、アーティスト・クリエイターまで、様々なバックグラウンドを持つ市民が活動

高い目的意識や問題意識を持ち、様々な活動が主体的に展開されるなど、横浜の市民力が集積する場

「文化芸術」・「スポーツ」・「エンターテインメント」・「食」など、暮らしに彩りを与え、共通の価値として人々をつなぎ付ける資源が集積

国際性豊かな開港の地ならではの様々な文化を受け入れる寛容性

－都心ならではのコミュニティの活性化に向けた考え方－

【活性化のポイント】

- 多様なバックグラウンドを持つ人々が集積し、活動することで、更に人が集まっていく好循環づくり
- 人と人をつなぎ付ける感動体験（文化芸術・スポーツ・エンターテインメント・食など）の機会向上
- パブリックスペースをはじめ、歴史的建造物、港、水際線等の積極的な利活用による横浜ならではの活動・交流の場の提供
- 人々の活動や交流、連携を促進するための仕組みづくり
- 横浜に惹き付けられた人々との新たな交流など、横浜の魅力向上につながる次世代を担う「ハマっこ」を育む仕掛けづくり
- 外国人がコミュニティとつながり、横浜での暮らしに愛着を持つための体制・仕組みづくり

【将来的な展望】

コミュニティの活性化により、横浜らしい先進的でユニークな価値観・発想を生み出す「創造力」と、それを実行・実現する「市民力」が飛躍的に発展

その結果、例えば…

- ・都心臨海部における新しいライフスタイルの創造・実現
- ・次世代の「ハマっこ」による新たな横浜ブランドの創造・発信
- ・環境問題の改善につながる画期的なアイデアの創造・実行
- ・あらゆる人にとってバリアのない社会の実現
- ・都市の多様性や持続性が高まり、将来にわたって魅力あふれる都心臨海部の形成
- ・都心臨海部が変わることで、横浜全体も変わる一大ムーブメントとして展開



大人の部活をコンセプトとする活動拠点



多様な人々が集まるまちづくり活動

<都心臨海部が目指す将来のライフスタイル>

就業者のライフスタイル

多様な人材の個性が生きる創造的な働き方

- ストレスの無い通勤により、毎日やりがいのある仕事に集中できる
- 職場だけでなく、お気に入りのカフェや公園、公共的空間など、街自体が私のワークプレイスである
- 女性やシニア層、外国人、グローバル人材等、あらゆる人々が生き生きと働き、活躍している
- 平日でも、早朝や仕事後に参加できる様々な活動が充実している
- 自分にとって居心地のよい第三の場所があり、仕事以外のコミュニティとの活動・交流は、新しいアイデアの創造にもつながる

居住者のライフスタイル

世界が憧れるアクティブでヘルシーな生活

- 港の美しい景観を楽しみながら、水際線をランニングなど、健康的な生活が実現できる
- 家族・友人と優れたアート・スポーツに身近に触れることができ、ここでしか得られない感動的な日常がある
- 様々な活動へ参加する中で、共通の目的意識を持つ仲間と出会える
- 地産地消の発想に基づく横浜らしい洗練された食・住を楽しめる
- 子どもからお年寄り、外国人まで、皆が笑顔でいられる持続的なコミュニティがあり、安心して暮らし続けられる

来街者の過ごし方

横浜の魅力と出会う体験・交流

- 港町ならではの景観や、開港以来培われてきた歴史・文化、豊かな水辺や緑に触れながら、居心地よく滞在ができる
- 横浜らしい特色のある先進的な文化芸術やデザイン、エンターテインメントを体験できる
- 横浜ならではのアフターコンベンションを楽しむことができる
- 来街者にフレンドリーな「ハマっこ」との交流は、ハッピーな体験となり、横浜のファンになる



5. 都心臨海部強化に向けた考え方

■ 基本戦略3 個性豊かなまちの魅力をつなぎ港と共に発展する都心づくり

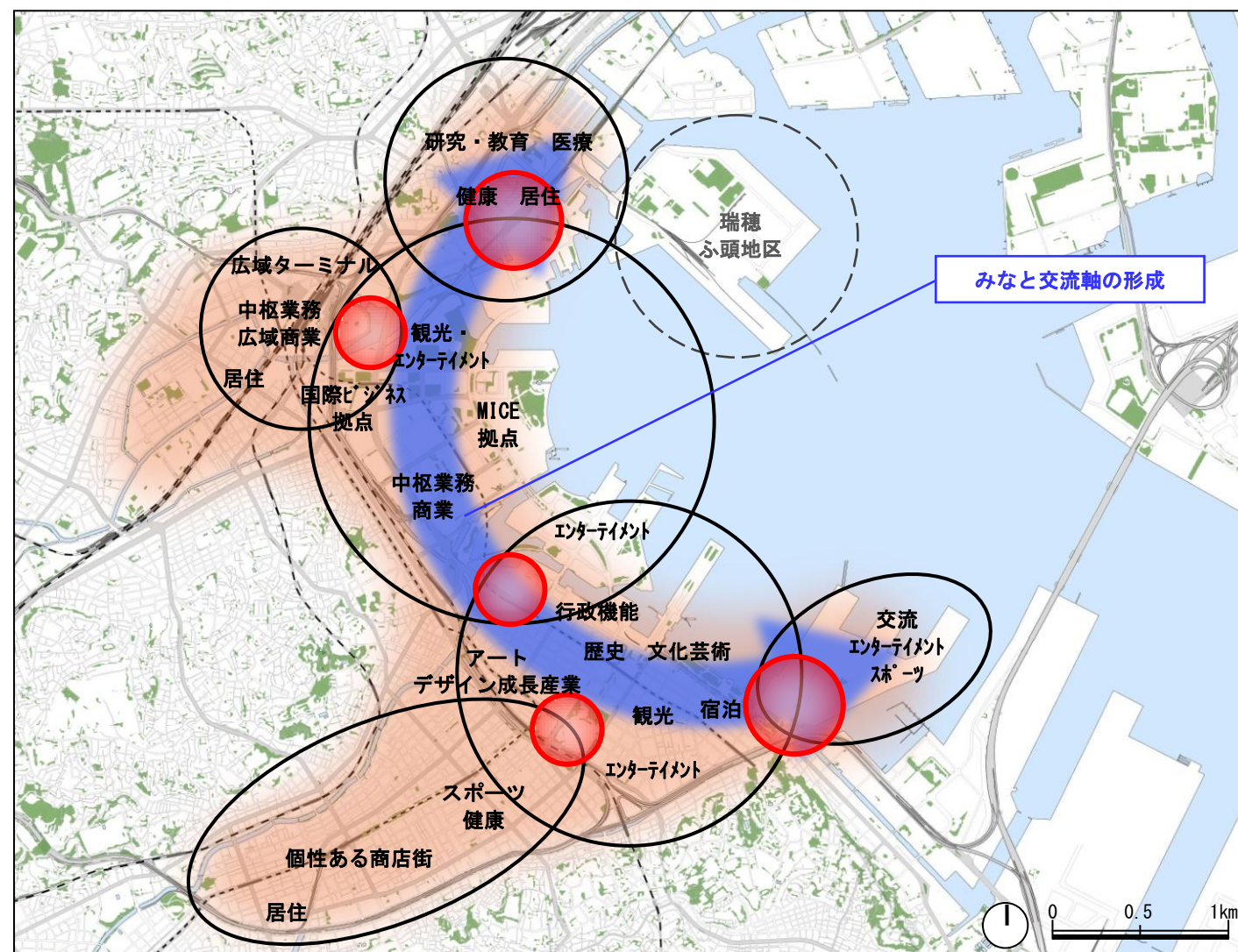
横浜開港の地である関内地区や、都心部強化事業により形成されたみなとみらい 21 地区など、時代の変遷の中で港と共に発展を遂げてきた都心臨海部では、**それぞれの時代の要請に応え、現在でも輝き続ける横浜ならではの資源が重層**しており、人々を惹き付ける横浜ブランドとなっています。また、都心臨海部には、地区特性の異なる5地区の中に、**都心機能がコンパクトに集積**されており、多様な魅力を兼ね備えた都心が形成されています。

一方、横浜港は、引き続き、国際コンテナ戦略港湾として、コンテナふ頭の再編強化や先進的な施設整備を進めるとともに、本牧ふ頭や南本牧ふ頭などにロジスティクス機能の集積を図り、臨海部の物流拠点の形成を進めます。都心臨海部が面する内港地区においては、**物流機能の冲合展開などにより土地利用を転換し、新たな賑わい拠点づくりを進めます。**

その中で、2050年の将来像の実現に向けた基本戦略1「次の時代の横浜の活力をけん引するビジネス・産業づくり」や、基本戦略2「豊かな創造力・市民力が息づく横浜スタイルの暮らしづくり」に基づく、**都心臨海部強化をより戦略的に展開**することが重要となります。

そのため、歴史・文化をはじめ、各地区の個性を生かしたまちづくりを更に展開するとともに、都心臨海部5地区（横浜駅周辺地区、みなとみらい 21 地区、関内・関外地区、山下ふ頭周辺地区、東神奈川臨海部周辺地区）や、それぞれの地区の魅力をつなぎ合わせる「**みなと交流軸**」の形成と、「**地区の結節点**」における**連携強化**を重点的に進め、都心臨海部5地区の一体的なまちづくりにより、港と共に発展する横浜ならではの都心を形成します。

<都心臨海部の機能配置とみなと交流軸・結節点の配置イメージ>



凡例（概ねの位置を示す）

- : みなと交流軸
- : 都心エリア
- : 結節点

<みなと交流軸の形成による狙い>

- ① 従来の都心を拡大し、**魅力的な水辺空間の創出により、港町としてのプレゼンスを高める。**
- ② **横浜の活力をけん引するビジネス・産業や、横浜スタイルの暮らしを育む舞台**となる。
- ③ 個性豊かなまち・界限・魅力・歴史が集積する**ウォーターフロントエリアの魅力増幅や連携強化により、横浜に多くの来街者を迎え入れ、地域全体の活性化を図る。**
- ④ まちが一体となることで更なる魅力を発揮し、**国内外に横浜ブランドを強力に発信**する。

<みなと交流軸に集積する横浜を象徴するまちの資源・機能>



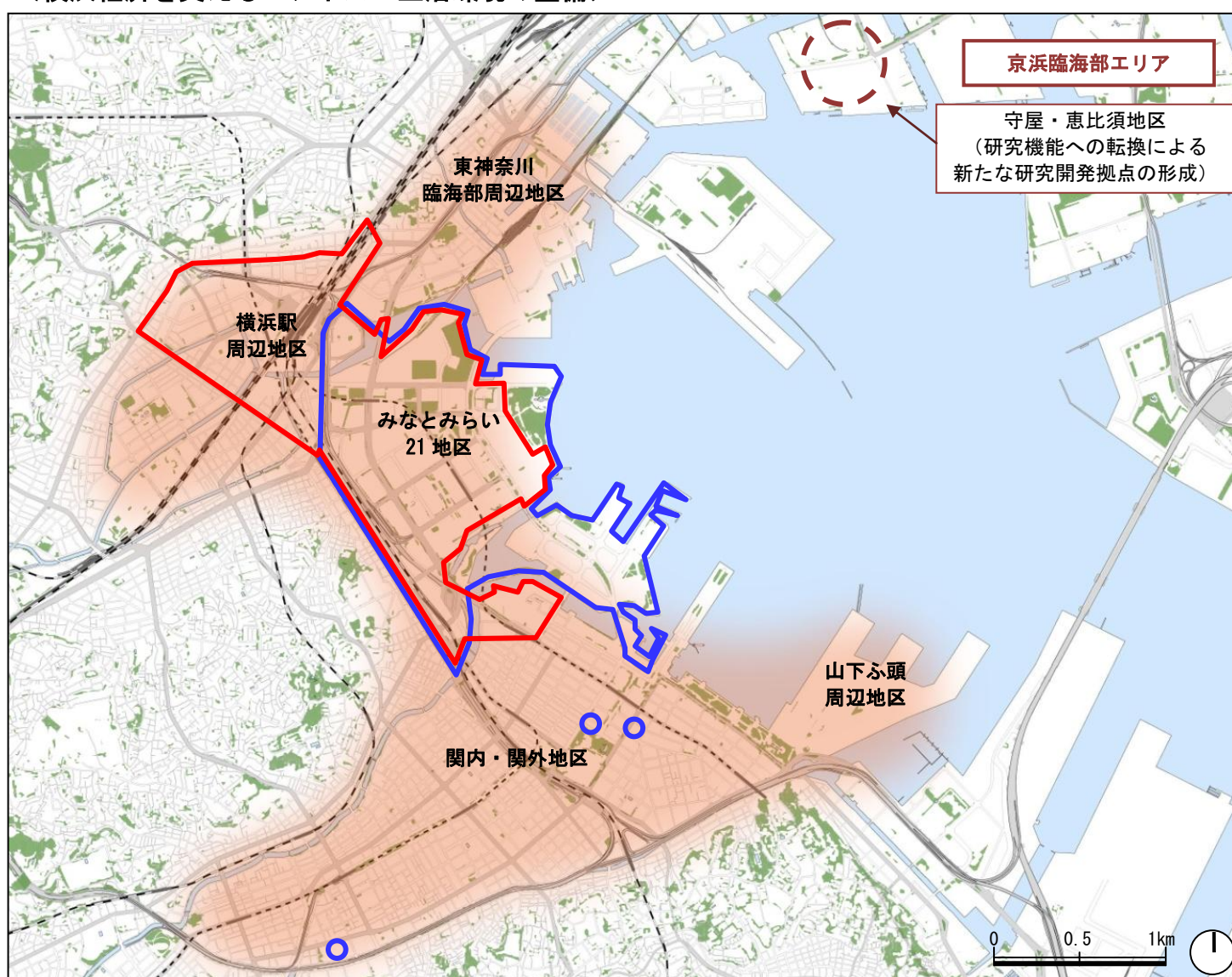
施策①「世界中の人々を惹き付ける空間・拠点の形成」

■ 横浜経済を支えるビジネス・生活環境の整備

業務・商業機能の強化と併せて、「国際ビジネス」、「ホスピタリティ」、「クリエイティビティ」の三つの視点から都心機能の強化に取り組み、都心臨海部ならではのビジネス環境の充実を図ります。また、これらの産業を支える企業の育成（起業家育成やベンチャー企業支援体制の強化、女性起業家の育成など）や挑戦する市内企業のイノベーションの促進を図ります。

あわせて、豊かなワークスタイル・ライフスタイルを実現できる都心臨海部ならではの生活環境整備を進め、都心臨海部で働く就業者をはじめ、様々な都市活動の担い手に選ばれる新しい都心づくりを展開します。

<横浜経済を支えるビジネス・生活環境の整備>



凡例

【横浜経済を支えるビジネス・生活環境の整備】

■：特定都市再生緊急整備地域

■○：京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区区域（みなとみらい21区域）

【ビジネス環境の強化・拡充に向けた取組】

- 国家戦略プロジェクトに基づく規制緩和をはじめ、様々な仕組みを活用しながら、ビジネス環境の強化・拡充を図ります。
- 街中でのワークプレイス創出のため、WiFi等の情報通信インフラの充実を図ります。
- 各地区の特性を踏まえた、都心機能の重点化を図ります。

地区名	特性	都心機能強化の三つの視点 (濃色：特に中心となるエリア)		
		国際 ビジネス	ホスピ タリティ	クリエイ ティビティ
横浜駅 周辺地区	・横浜の広域交通結節点 ・国家戦略特区に指定	■	■	■
みなとみらい 21地区	・横浜の国際ビジネス・MICEの中核 ・複数の国家戦略プロジェクトに指定	■	■	■
関内・関外 地区	・開港の地であり、横浜ならではの資源が集積 ・文化芸術創造都市の中心地	■	■	■
山下ふ頭 周辺地区	・港に囲まれる特徴的な地形 ・関内・関外地区に隣接	■	■	■
東神奈川 臨海部周辺地区	・羽田空港・京浜臨海部と横浜駅周辺地区・ みなとみらい21地区の間に立地	■	■	■

【都心臨海部の特性・魅力を生かした生活環境整備】

<外国人をはじめ多様な担い手のための生活環境整備>

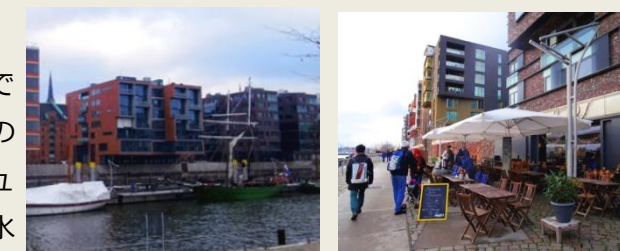
- 羽田空港との高いアクセス性や港を望む眺望を生かし、高規格住宅やサービスアパートメントの整備を誘導することで、国際企業がし好する職住近接型の質の高い環境整備を実現します。
- 周辺市街地と連携しながら、インターナショナルスクールや、外国語や多文化に対応した医療や食を提供する生活関連施設の充実を図り、外国人が安心して暮らせる環境を創出します。

<多様なライフスタイルに対応した選択性の高い生活環境整備>

- 業務・商業機能等とのバランスに配慮しながら、住宅ストックの有効活用に取り組み、質の高いリノベーションやコンバージョン等を誘導し、様々な用途がミックスした都心ならではの居住スタイルを創出します。
- アーティスト・クリエイターなどが、住みながら活動したいと思える環境整備を進め、都市の新しい活力を育成します。
- 働きやすく、暮らしやすい環境の整備に向け、子育て支援の充実を図ります。

【海外の事例】水際線を生かした賑わい形成

- 海外では、河川・運河等を利用し、開放的で賑わいある通りや、水辺を眺める低・中層の住宅など、水辺を感じ・楽しみ・親しむヒューマンスケールの環境づくりが進められ、水際線の賑わいが形成されています。



水際線を生かしたまちづくり【ハンブルグ】

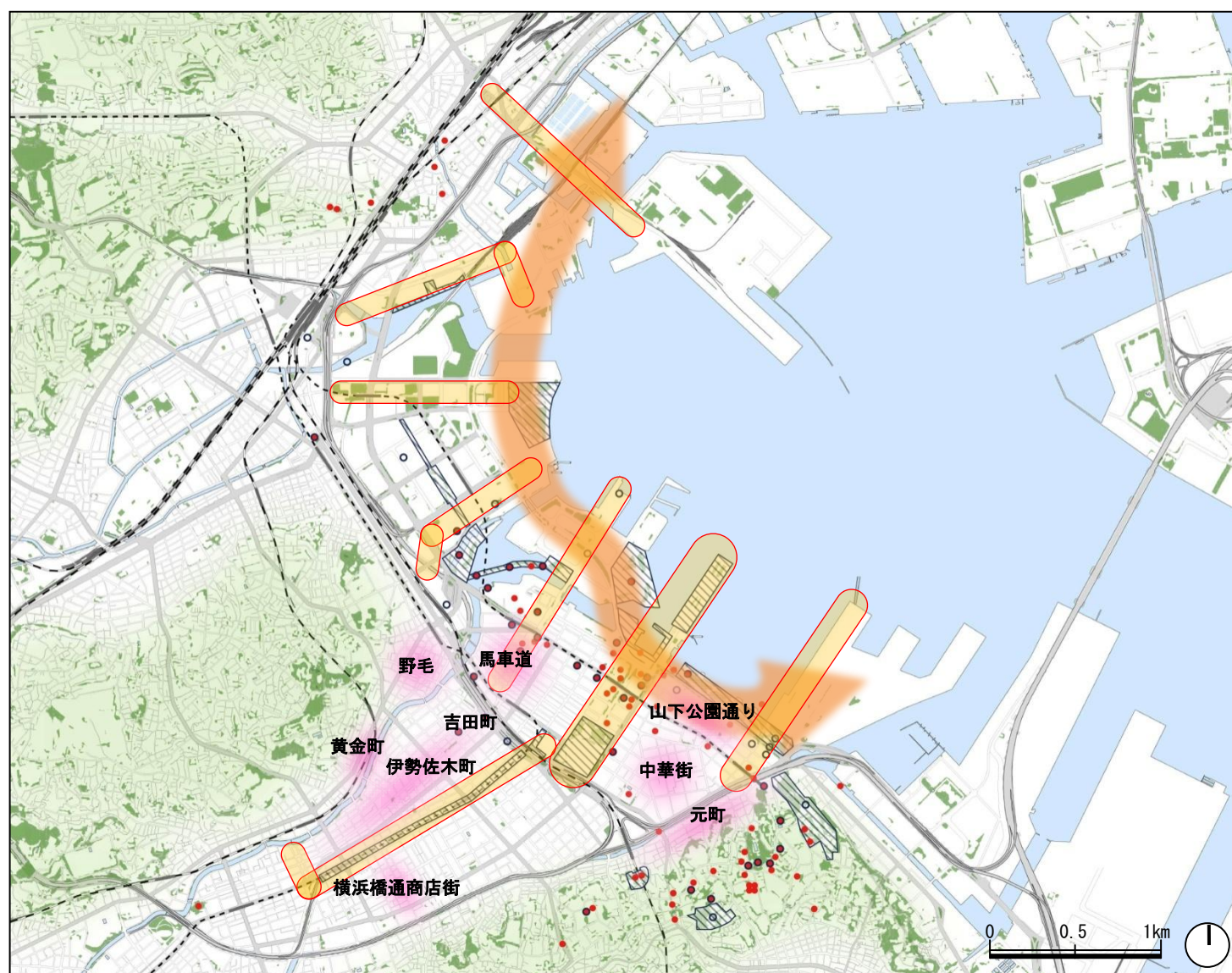
施策①「世界中の人々を惹き付ける空間・拠点の形成」

■ 都市デザインによる創造性豊かな空間づくり

幅広い視点から、これまでのまちづくりで育まれてきた様々な資源の再認識を行いながら、関内・関外地区に集積する個性豊かな界隈の魅力向上や、都市デザイン活動によるまちづくり、港を意識した街並み・景観づくりを更に展開し、横浜の都市ブランド力・国内外への情報発信力の更なる強化を図ります。

また、都心臨海部を訪れる人々や、生活者、地域コミュニティが利用する都市活動の場として、歴史的建造物やパブリックスペースの利活用など、既成概念にとらわれない空間活用を積極的に進め、人々が持つ創造性を豊かなものにしていきます。

<創造性豊かな場づくり>



凡例

【創造性豊かな空間づくり】 ※ 国/県/市の指定・登録文化財（史跡・建造物）、及び横浜市の認定歴史的建造物

- : 歴史的建造物※
- (pink) : 個性豊かな界隈
- (orange) : 都市軸（ウォーターフロント軸）
- (yellow) : 都市軸（水際線へと向かう軸）
- (blue) : 横浜ブランドを高める空間・施設（都市デザインの取組）

<横浜のブランド力を高める空間づくり>

- 関内・関外地区に集積する個性豊かな界隈の魅力を高め、横浜ならではの賑わいを形成します。
- 横浜三塔のように、歴史的建造物に物語性をもたせ、都市のブランドづくりに貢献します。
- 港からの眺望などを意識し、後背の丘・斜面緑地や周辺建物のスカイラインと調和した水際線の良好な景観を創造し、世界有数の「美港」としてふさわしい景観形成を進めます。
- 国際都市横浜を象徴する新たなランドマーク創出のため、国際プロポーザルなど質の高いデザインを取り入れた施設整備に取り組みます。
- 夜景演出により、昼間とは異なる街の美しさ、楽しさを創出し、横浜のナイトライフを充実させます。
- 地区特性を踏まえ、横浜ならではの景観でこそ成立する高質で魅力的な屋外広告物を誘導します。



中華街の賑わい

野毛の個性豊かな界隈

【都市景観づくり】



Photo by Hideo MORI
港から見た都心臨海部の景観



プロポーザル方式により再整備された象の鼻パーク
スマートイルミネーション横浜

<まちの資源を活用した横浜ならではの都市活動の推進>

- 開港以来の歴史を語り継ぐ歴史的建造物等について、リノベーションによる活用を図ります。
- リノベーションした建物は、創造都市の活動拠点（創造界隈拠点）として活用し続けるとともに、都心のコミュニティ形成やまちの賑わいを生み出す施設としても幅広く活用します。
- パブリックスペースや水際線の積極的な利活用により、街なかの賑わいづくりや文化芸術活動、イベント開催など、都心ならではの多様なニーズに対応可能な都市活動の場を提供します。
- 都心臨海部ならではの環境を生かした大規模なイベント誘致等に取り組み、魅力的なまちを見せることで、横浜ブランドを世界に発信していきます。
- MICE の開催と併せて、歴史的建造物や文化施設、公共的空間等を利用したレセプション等の開催など、横浜ならではのユニークベニューを創出していきます。

【歴史を生かしたまちづくり】

【都心臨海部ならではの都市活動イメージ】



旧横浜正金銀行本店本館
(神奈川県立歴史博物館)



旧第一銀行横浜支店
(ヨコハマ創造都市センター)



Photo by YJP (撮影: クルー同部)

横浜
JAZZ PROMENADE



スポーツイベント

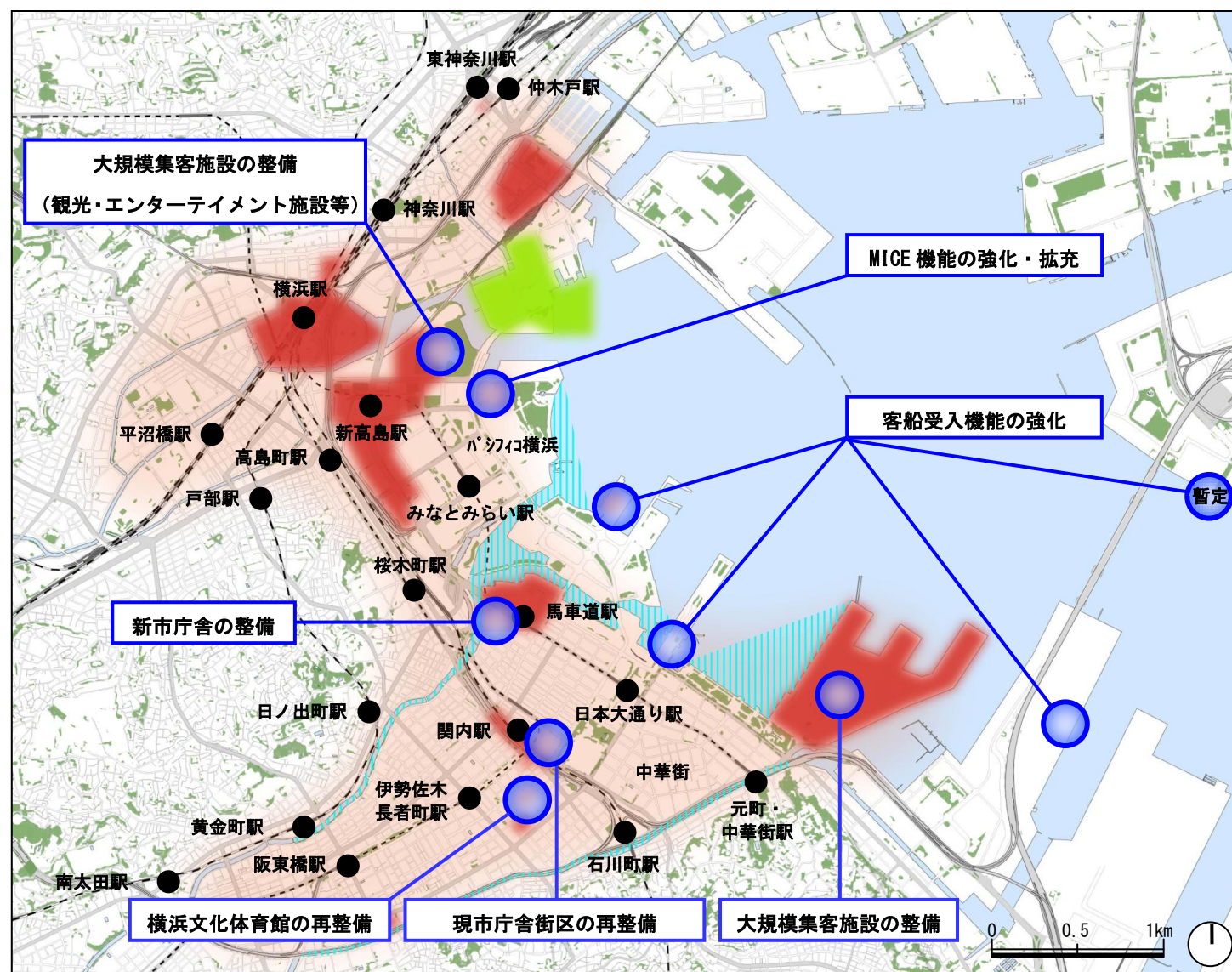
施策①「世界中の人々を惹き付ける空間・拠点の形成」

■ 人々を惹き付ける新たな拠点づくり

「みなと交流軸」を中心とした戦略的なまちづくりを実現するための環境整備として、都心臨海部の新たな「核」となり、横浜ならではの魅力として人々に長年愛されるようなウォーターフロントを生かした大規模集客施設をはじめ、以下のプロジェクトや市民等への積極的な水域の開放を進め、まちづくりの更なる相乗効果を生み出します。

新たな施設整備にあたっては、施設周辺のまちづくりとの連携や環境整備に取り組み、横浜でしか得られない感動体験を演出するとともに、官民パートナーシップの活用やIR（統合型リゾート）の導入などについて検討します。あわせて、海洋に関する企業や研究機関・大学等での先進的分野の取組を、横浜の強みとして生かしていきます。

<将来のプロジェクト配置>



凡例
 【プロジェクト目標年次】【人々を惹き付ける新たな拠点づくり】
 ■ : 2025年 ● : 核となる施設
 ■ : 2050年 ▨ : レクリエーション等活性化水域※

<大規模集客施設のイメージ>



<IRのイメージ>



※ IR(統合型リゾート)とは、カジノ施設及び会議場施設、宿泊施設、大規模集客施設その他の観光の振興に寄与すると認められる施設が一体となっている施設を指します。

<2025年までを目標とした主なプロジェクト一覧>

地区	プロジェクト
横浜駅周辺地区	○横浜駅・駅周辺における民間開発の促進 ・横浜駅西口駅ビル計画 ・幸栄地区 ・五番街地区 ・鶴屋町開発 ・ステーションオアシス ・出島地区
みなとみらい21地区	○20街区の開発 (MICE 機能の強化・拡充) ○新港ふ頭の客船受入機能の強化 ○60・61街区等の開発 (観光・エンターテインメント施設等の大規模集客施設)
関内・関外地区	○北仲通北地区・南地区 (新市庁舎) ○現市庁舎街区の再整備 ○横浜文化体育館の再整備 ○関内駅の拠点性強化 ○南区総合庁舎の整備 ○公有地の再編・活用 ○旧関東財務局の再整備
山下ふ頭周辺地区	○ふ頭の再開発 (大規模集客施設)
東神奈川臨海部周辺地区	○東神奈川駅前再開発事業 ○東高島駅北地区の面的整備

<2050年までを目標とした主なプロジェクト一覧>

地区	プロジェクト
東神奈川臨海部周辺地区	○埋立による緑地の創出 ○中央卸売市場周辺地区の高度利活用

【参考】
 瑞穂ふ頭地区 ○瑞穂ふ頭の返還・まちづくりの実施

※ 横浜港の一層の賑わい創出、魅力向上、港らしい風景の形成などを図るため、水域を市民等へ積極的に開放し、カヌー、シーカヤック、トライアスロンといった海洋性レクリエーションの多様な水域利用を促進するとともに、水上交通や観光船を充実させるエリア

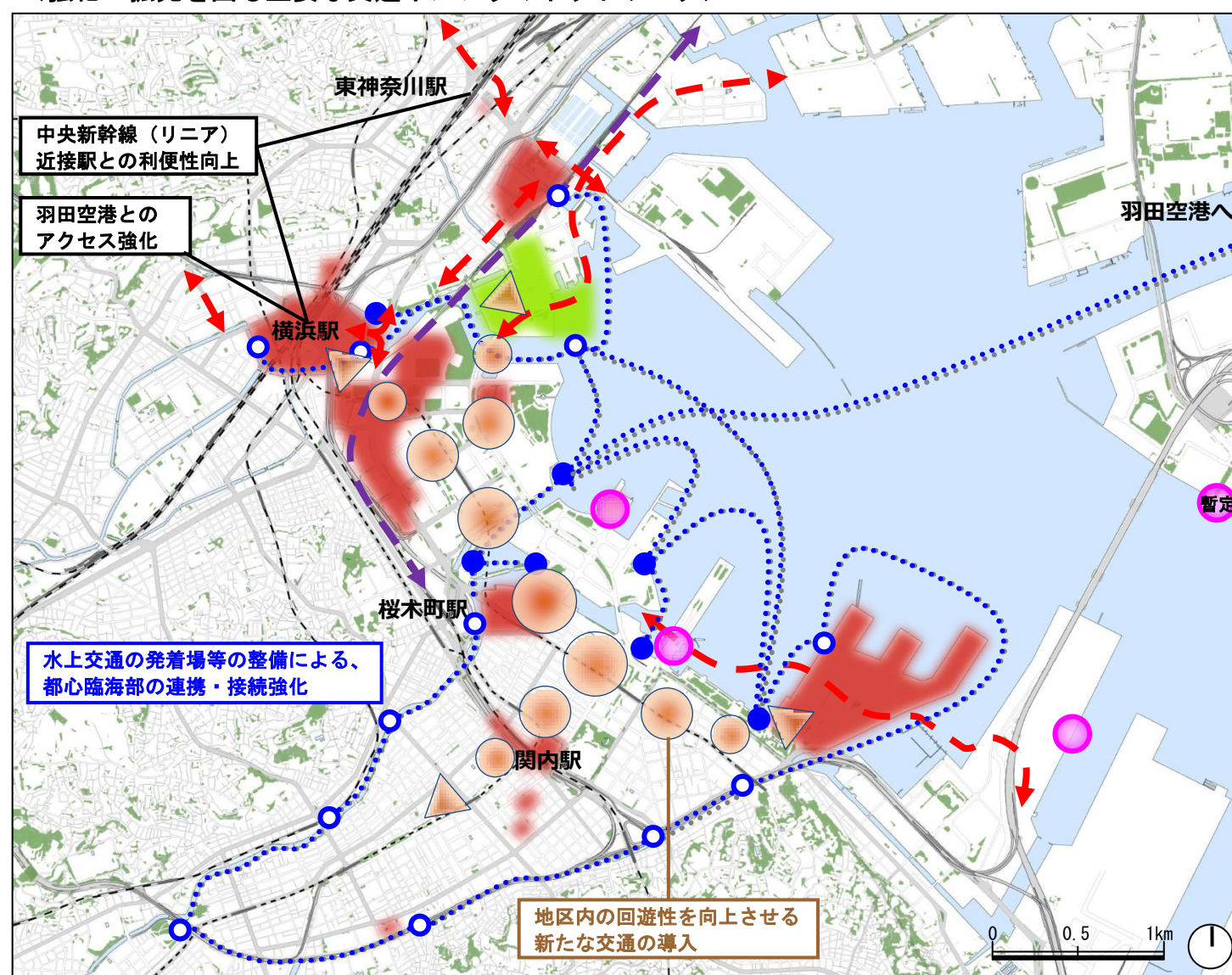
施策②「まちを楽しむ多彩な交通の充実」

■ 回遊性を高めるネットワークの強化：主要な交通インフラ

都心臨海部では、公共交通や歩行者、自転車を中心とした交通体系を強化・拡充し、まちを眺めながらの移動自体が楽しく感じられるようなまちづくり、ネットワークづくりを展開し、地域全体の回遊性を高めていきます。

その中で、今後の都心臨海部の開発状況や既存の交通インフラの利用状況等を踏まえながら、まちの賑わいづくりに寄与する新たな交通の導入や、港町の特色を生かした水上交通ネットワークの拡充により、更なる観光客の呼び込みや交流人口の増加、まちのホスピタリティの向上を図ります。なお、整備・導入に際しては、バリアフリー動線の確保や、様々な交通モードの円滑な乗り換えを実現し、公共交通利用者の利便性を高めていきます。

<強化・拡充を図る主要な交通インフラのネットワーク>



凡例

【プロジェクト目標年次】 【強化・拡充を図る交通インフラのネットワーク】

- : 2025年
- : 2050年
- ←→ : 鉄道インフラ強化
- ←→ : 道路インフラ強化
- : 客船寄港の促進
- : 新たな交通
- : 水上交通
- : 水上交通の発着場(既設・新設)

<都心臨海部の回遊性を高める新たな交通の導入>

- 既存の交通モードとの役割分担を整理のうえ、水際線や内陸地について、新たな交通の導入を進め、訪れる観光客をはじめ、就業者や居住者の利便性・回遊性を高めます。
- 導入にあたっては、周辺のまちづくりとの連携を密に図り、魅力的な都市空間を形成します。



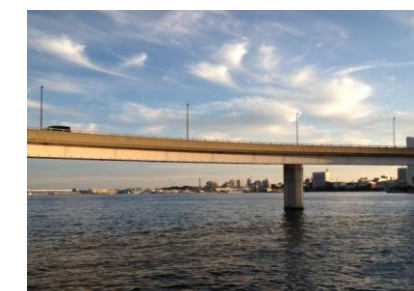
新たな交通の導入イメージ(左上:LRT、右上:連節バス、下:ロープウェイ) ※出典⑧

<道路インフラの強化・拡充>

- まちづくりや港湾の整備状況を踏まえながら、臨港幹線道路や横浜上麻生線、東神奈川線等の整備を進めます。

<鉄道インフラの強化・拡充>

- 東高島貨物駅周辺の再整備を契機に、東海道貨物支線について、旅客線化に向けた取組を進めます。



臨港幹線道路

<客船寄港の促進、水上交通の強化・拡充>

- 横浜への海からの玄関口である、大さん橋国際客船ターミナルや新港埠頭について、客船ターミナル機能の強化・拡充を図り、国内外から多くの来街者を迎え入れます。
- 水上交通の発着場等の整備を進め、水上交通ネットワークの強化・拡充を図ります。



大型客船が寄港する
大さん橋国際客船ターミナル



横浜駅東口からベイエリアへと
向かうシーバス



防災拠点や水上レクリエーションの
拠点として整備された船着場

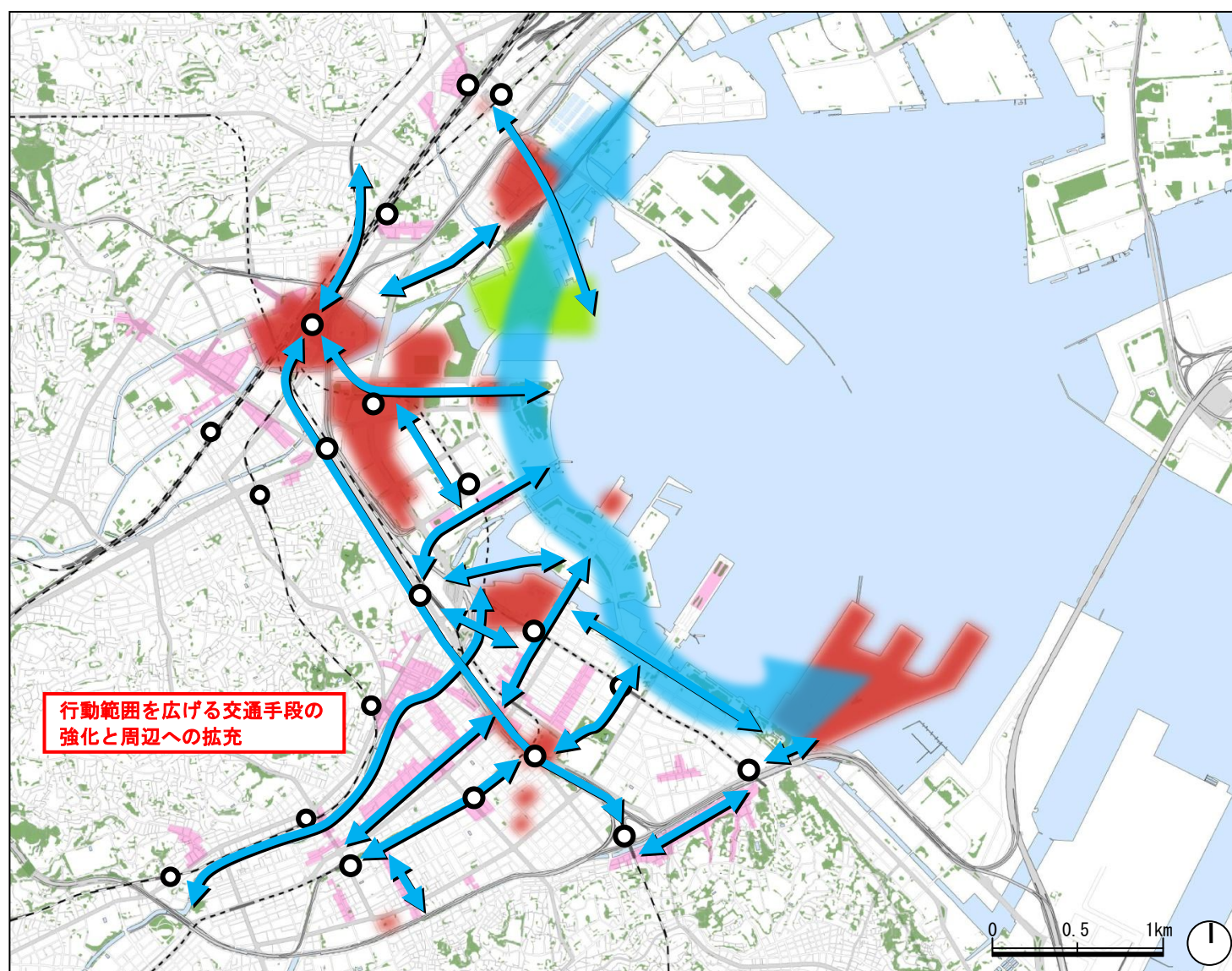
施策②「まちを楽しむ多彩な交通の充実」

■ 回遊性を高めるネットワークの強化：歩行者・パーソナルモビリティ

個性的で魅力ある界隈がコンパクトに集約されている都心臨海部においては、それらの魅力を最大限に享受できるように、子どもからお年寄りまで、誰もが安心して歩いて楽しめるまちづくり・ネットワークづくりを展開し、地域全体の活性化を図っていきます。その中で、水辺へと向かう緑豊かな歩行者動線の整備を進め、横浜らしさを象徴する水際線の空間へと人々を呼び込んでいきます。

あわせて、駅をはじめとする交通結節点間や拠点的な施設を結ぶ環境配慮型のモビリティの導入を進め、行動範囲を広げる交通手段として、地区内移動の利便性を高めていきます。

<将来の歩行者ネットワーク>



【プロジェクト目標年次】		【回遊性を高めるネットワークの強化・拡充】	
■	2025年	○	鉄道駅
■	2050年	■	商店街
		→	海沿いの歩行者軸
		↔	地区内を回遊する歩行者軸

【歩行者ネットワークの強化・拡充】

- 人々を、横浜らしさを象徴する水際線へと呼び込むため、海へと続く歩行者軸や都心臨海部の各地区の連携強化に向け、東横線跡地事業の推進等、魅力ある歩行者ネットワークの強化・拡充を進めます。
- 歩行者ネットワークの強化・拡充と併せて、沿道の賑わいある街並みの形成や、街歩きを演出するパブリックスペースの充実（一息つけるベンチの設置など）、緑豊かな植栽等の環境整備を併せて展開し、歩いて楽しいまちを形成します。
- 「山下ふ頭周辺地区」や「東神奈川臨海部周辺地区」については、多くの人々が地区間・地区内を円滑に移動できるよう歩行者ネットワークの強化・拡充を進めるとともに、人々を水際線に導く新たな歩行者軸の形成を進めていきます。



海沿いの開放的な歩行者空間



歩いて楽しい賑わいある街並み



横浜ならではの歩行者空間

【行動範囲を広げる交通手段の強化・拡充】

- 特色ある都心臨海部の地区間・地区内を快適に回遊し、目的地へより円滑に移動できるよう、現在進められているコミュニティサイクルの強化・拡充や、自転車を安全で快適に利用するための環境整備を進めていきます。
- 環境配慮型のパーソナルモビリティなどの導入を進めていきます。
- 他モビリティと連携できるよう、円滑な乗換えシステムの構築を進めていきます。



コミュニティサイクル



超小型モビリティ



セグウェイ



シクロポリタン

施策②「まちを楽しむ多彩な交通の充実」

【都心臨海部の回遊性づくりのイメージ】

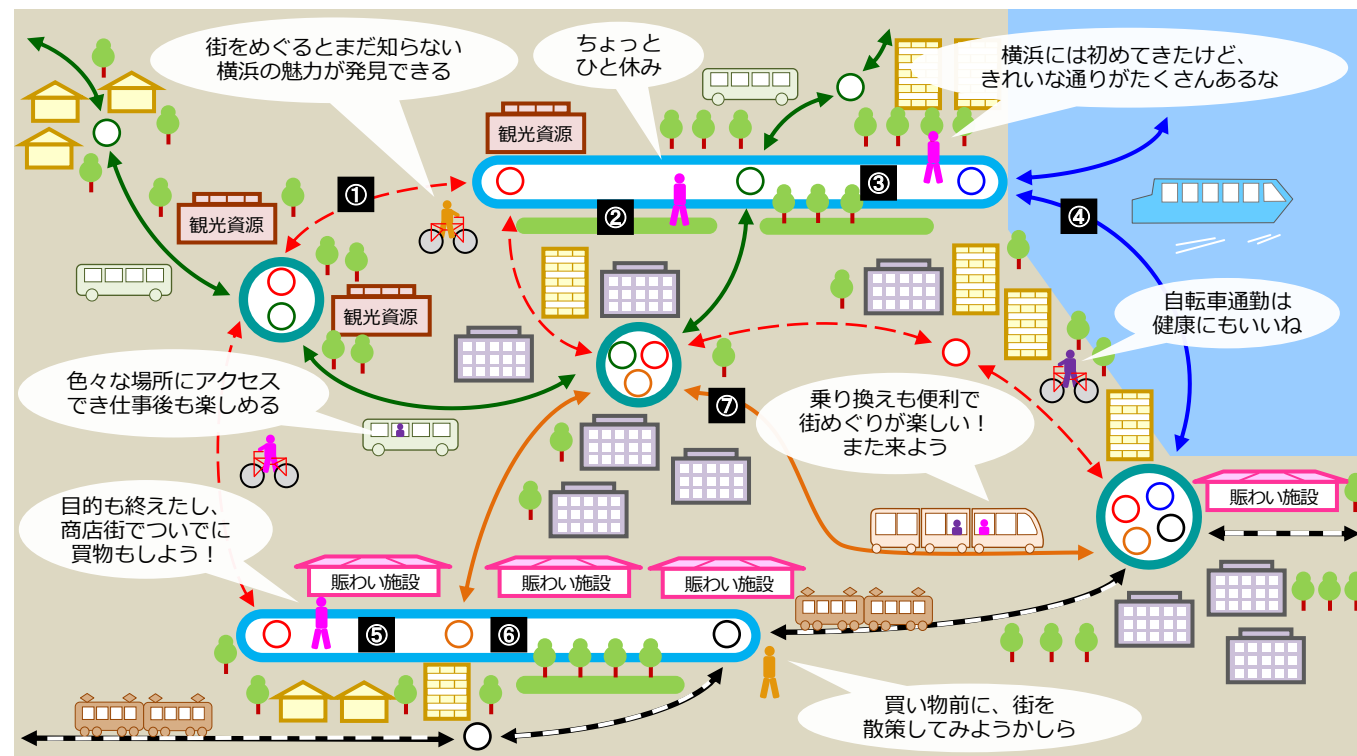
多様な人々が利用し、個性豊かな施設・界隈が多数存在する都心臨海部では、様々な目的に応じて移動できるよう、幅広い交通手段による回遊性づくりを進めるとともに、交通結節点や歩行者軸においてそれぞれを円滑につなぐことで、誰にとってもわかりやすく利用しやすいネットワークづくりを展開します。ネットワークづくりにあたっては、人々の新しい行動を誘発するような仕掛けづくりを行い、まちづくりとの相乗効果を生み出します。

EX…

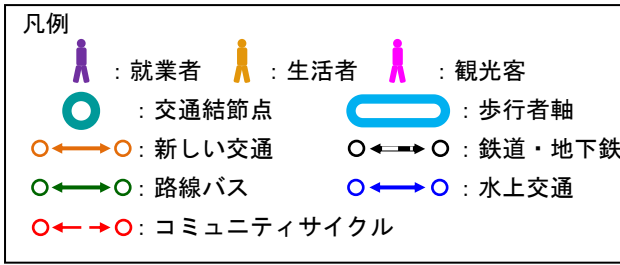
- ・情報通信技術等を活用したまちの情報や、乗換案内情報の充実
 - ・交通モード共通のICカード等の導入による円滑な移動の推進
 - ・多言語対応の環境整備による外国人観光客の移動支援
- など



①コミュニティサイクルを借りて移動 ②居心地のよい公園でひと休み
③海沿いの開放的な道を歩く ④発着場から水上交通に乗車

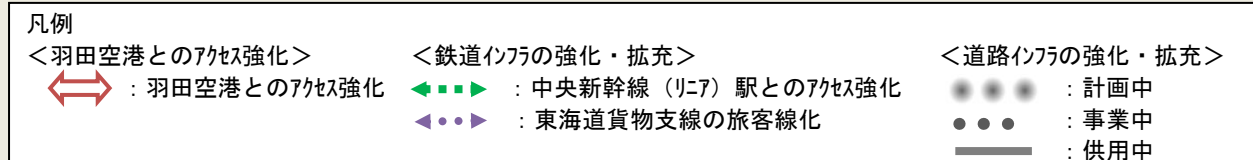
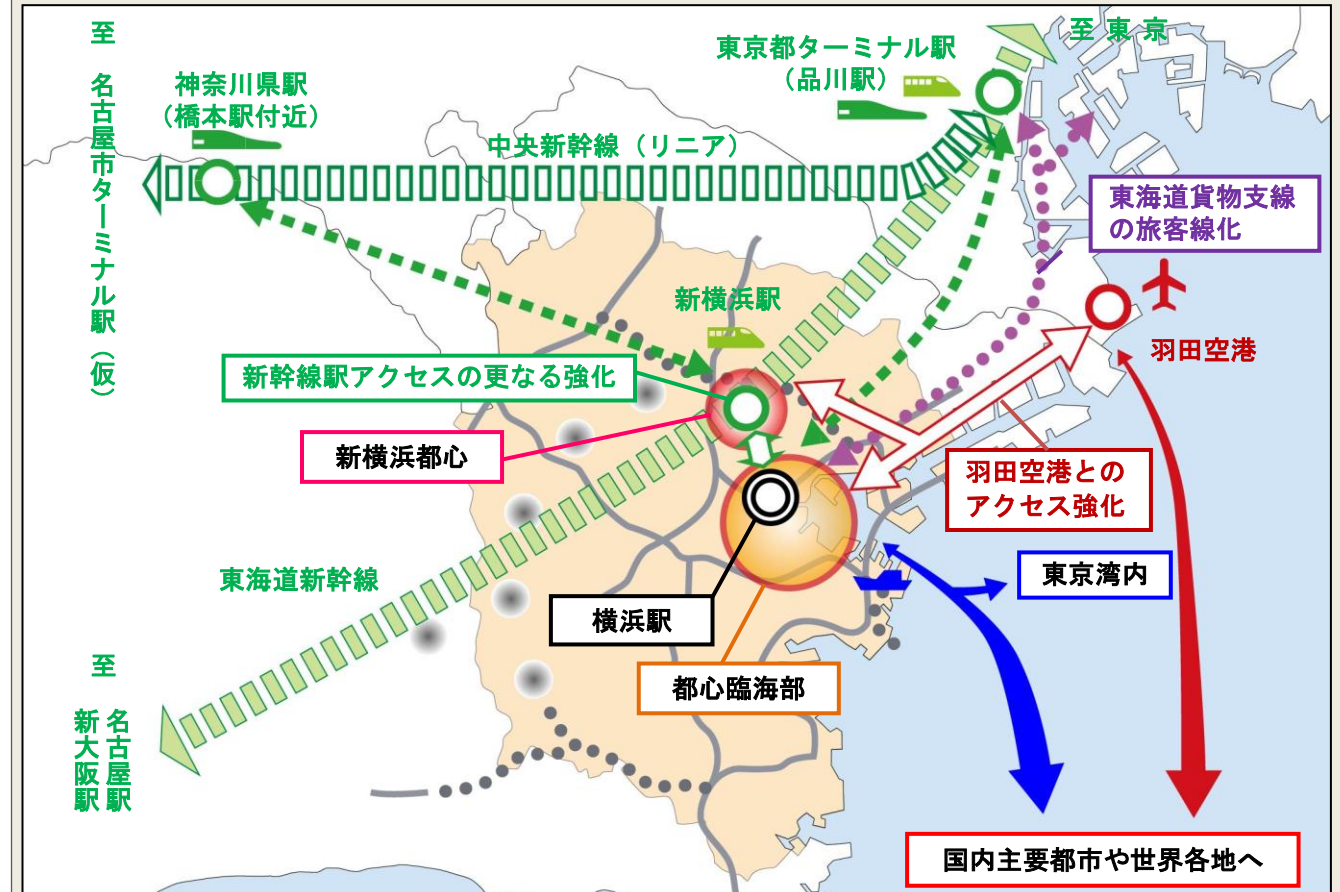


⑤賑わいのある商店街を歩く ⑥通り沿いのカフェでひと休み
⑦新たな交通で街中を眺めながら回遊



【コラム】広域交通インフラの強化・拡充

都心臨海部における国際競争力強化や、東京をはじめとする周辺他都市との連携強化に向け、横浜市全域や周辺自治体と連携することで、空港や中央新幹線（リニア）駅に接続する路線をはじめとする、広域交通インフラの中・長期的な強化・拡充に取り組み、人・物の移動の円滑化を促進します。



<鉄道インフラの強化・拡充>

【羽田空港アクセスの更なる強化に向けた取組例】

- 羽田空港の直通・速達型列車の運行本数の増加や、早朝・深夜便への対応などの利便性向上
- 利用者の利便性・快適性に配慮し、鉄道によるアクセスの質の向上

【新幹線駅アクセスの更なる強化に向けた取組例】

- 中央新幹線（リニア）の開通を見据えた新幹線駅へのアクセスの更なる向上
- 市営地下鉄の快速運転による新横浜駅への時間短縮化や、横浜線の根岸線乗入本数の増加等による横浜～新横浜間の利便性の向上

<道路インフラの強化・拡充>

【広域的なアクセス強化に向けた取組例】

- 環状道路など、広域的な道路交通網の強化による都心部へのアクセス強化

施策③「世界を先導するスマートな環境の創出」

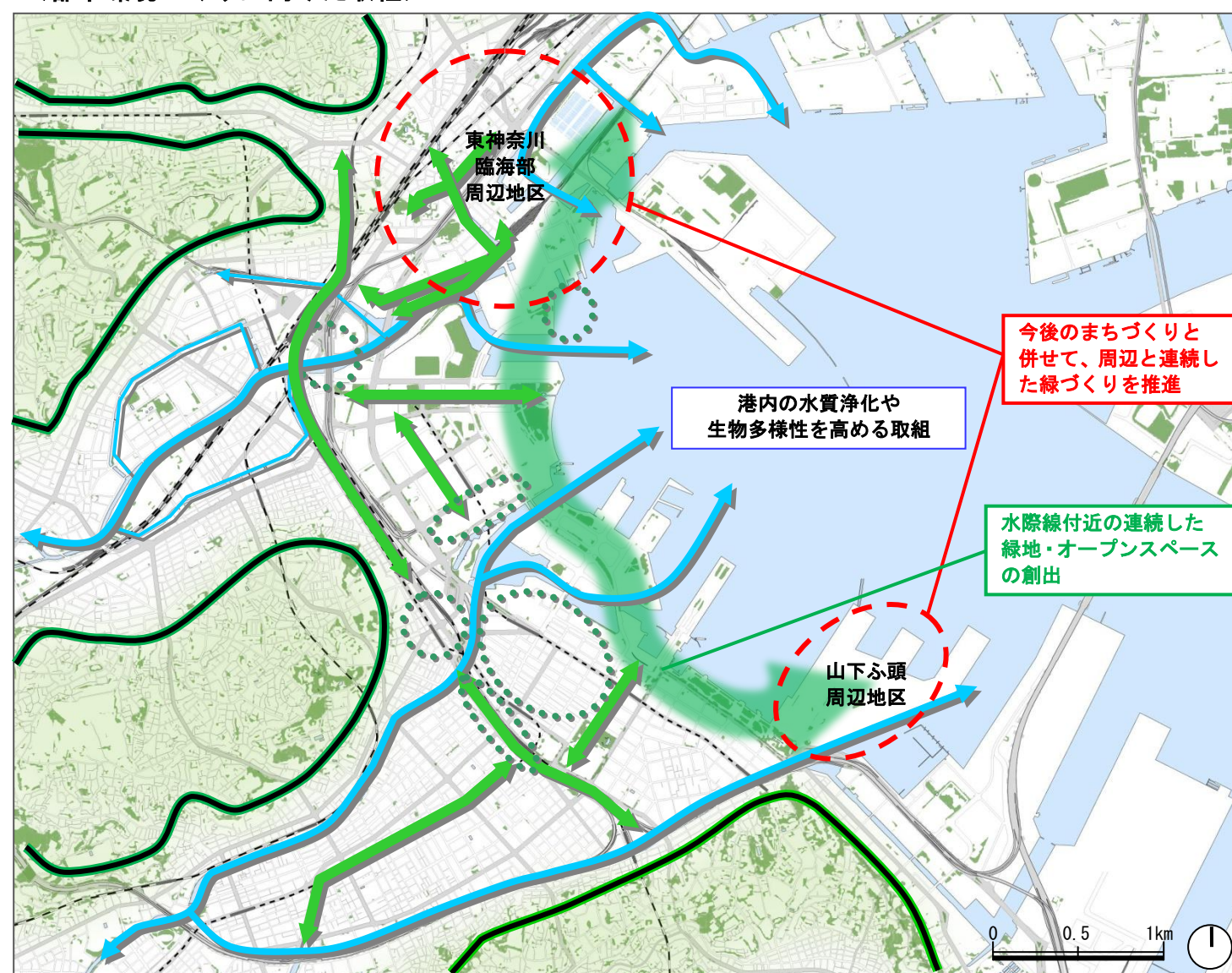
■ 海を意識した水・緑・風の環境づくり

風格ある横浜の都心臨海部を形成するため、また、横浜市民が誇りに思い、次世代に残し続け・はぐくむ環境インフラとして、都市と水際線がつながる都心臨海部ならではの貴重な都市環境を生かした、豊かな水と緑づくりに取り組みます。

また、「山下ふ頭周辺地区」や「東神奈川臨海部周辺地区」については、今後の計画的なまちづくりと併せ、周辺と連続した水際の緑づくりを展開していきます。

あわせて、河川が入り組む特徴を生かした風の道の形成を図り、市街地に海風を導いていきます。

<都市環境づくりに向けた取組>



凡例

【海を意識した水・緑・風の環境づくり】

- : 水と緑の大景観づくり
- : 積極的な緑づくり
- ⇄ : 緑の軸線
- - - : まちづくりに併せて緑づくりを実施
- : 斜面緑地
- ⇄ : 風の道・親水空間整備

【横浜の風格を高める水と緑づくり（公民連携）】

- 丸みのある湾の形状を生かし、横浜港から市街地を望む視線を意識した、水際線付近の連続した緑地や、後背に重なる丘・斜面緑地など、横浜ならではの地形を生かした風景を大切に、成熟した横浜の魅力を伝える水と緑づくりを展開します。
- 街なかでは、魅力ある水際線へと人々をいざなう緑の軸線を強化・拡充するとともに、人々が日々の暮らしの中で快適で心地の良い緑を実感できるよう、滞留空間や歩行者ネットワークに沿った緑化を推進し、四季折々の変化を感じられるような、潤いと安らぎのある緑づくりを進めます。
- みなとみらい21地区のキング軸等において、集中的な緑化誘導を行うことにより、内陸部から海へと向かう緑の都市軸を形成します。
- 地域の新たな価値となるような先進的な緑づくりに取り組みます。
- 港内の水質浄化や生物多様性を高める取組を推進するとともに、親水空間の整備等に取り組み、人々の暮らしに息づき、親しまれる水辺空間を創出します。



水際線へといざなう、風格ある緑の軸線



陸側から望む水と緑の風景



四季を感じる多様な花々

【風の道を生かした環境づくり】

- 海風を市街地へと導く風の道を確認し、河川沿いの積極的な緑化により、市街地のヒートアイランド現象の改善に取り組みます。



街なかに海風を導く風の道のイメージ

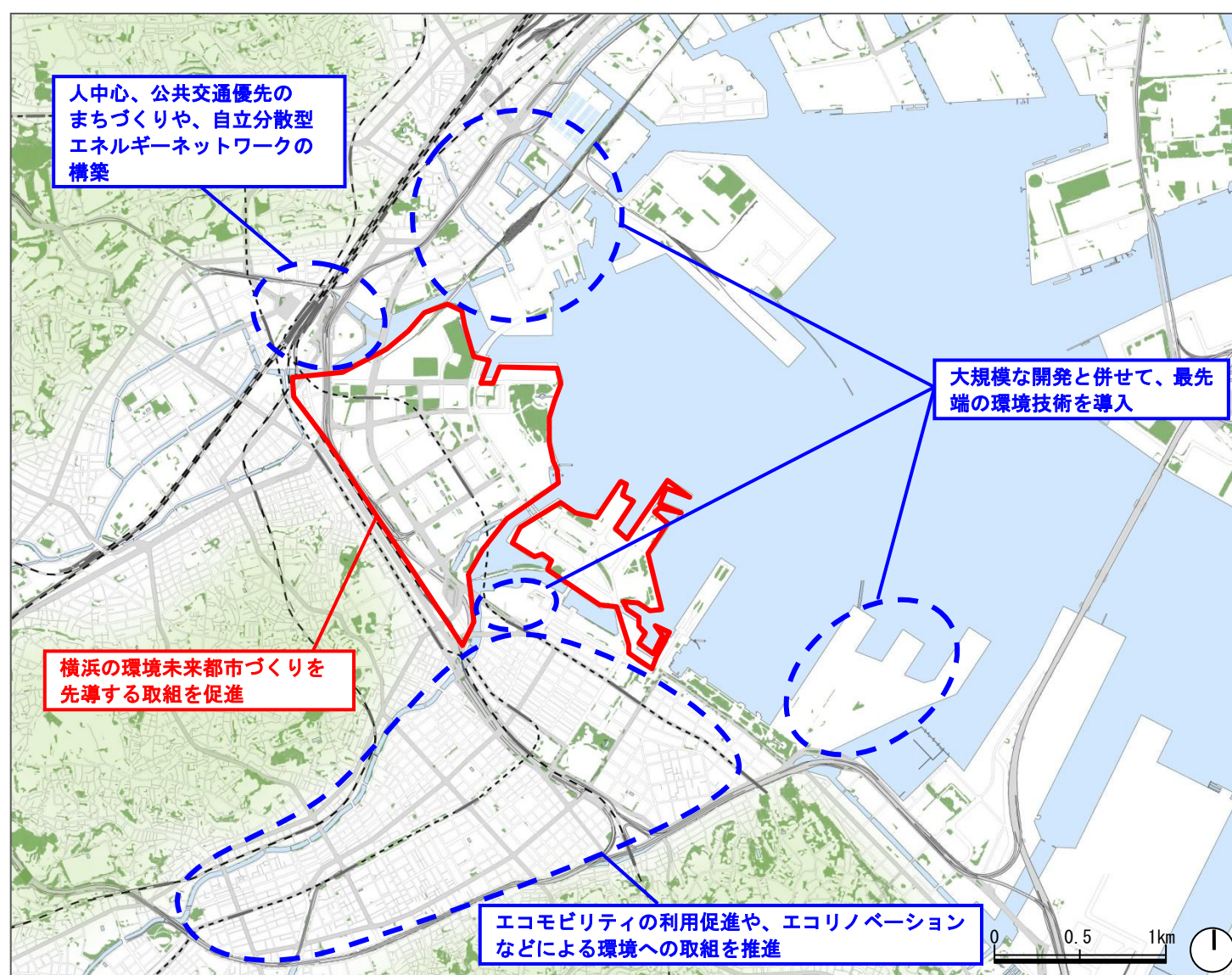
施策③「世界を先導するスマートな環境の創出」

■ 最先端技術等の導入による環境負荷低減

地球規模で進行する気候変動への対応のひとつとして、低炭素化・省エネルギー化に配慮した計画的なまちづくりや、先進的な環境技術の導入、災害発生時にも強靱かつしなやかに機能する自立分散型エネルギーネットワーク同士の連携等に取り組み、世界の環境都市づくりのモデルケースとなる次世代の環境づくりに取り組んでいきます。

また、ハード面の整備と併せて、ソフト面においても、都市ブランド力の高い都心臨海部の特性を生かし、環境意識の向上に向けた、環境指標の積極的な見える化や、環境先端技術を街なかに展開する企業と連携した環境イベントの開催など、横浜市民の環境意識を高める取組を促進します。

<環境負荷低減に向けた取組>



凡例

【最先端環境技術等の導入による環境負荷低減】

○ : 現在実施中

--- : まちづくりに併せて環境施策を実施

【都心臨海部全体における低炭素化・省エネルギー化に向けた取組】

- エネルギーの高効率利用や、「強靱」かつ「しなやか（迅速な回復力）」なエネルギーシステムをもつまちづくりを進めます。
- 公共交通や歩行者・自転車中心のまちづくりを進め、環境負荷低減を図ります。
- 京浜臨海部との近接性を生かし、未利用エネルギーの活用を図ります。
- まちづくり実施の段階で、低炭素化に資する環境技術の導入を、事業者に働きかけていきます。

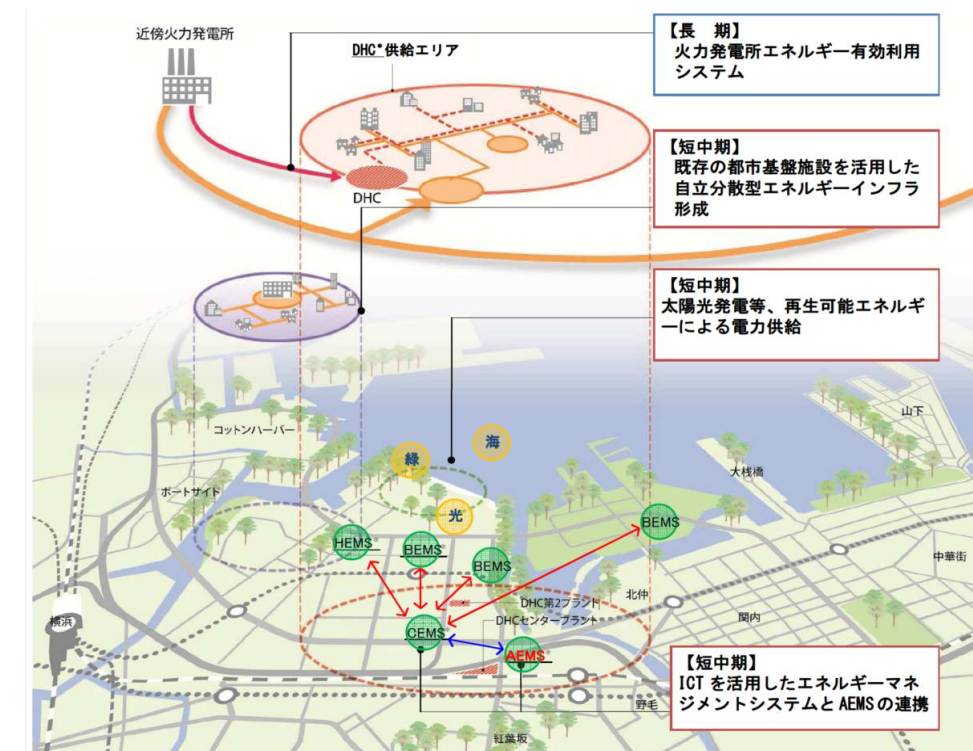
EX…

- ・ HEMS、BEMS、CEMS の導入によるスマートグリッドの確立
- ・ 自立分散型エネルギーネットワークの形成
- ・ 最新のグリーンビルディングの導入
- ・ 公共施設の上部空間を活用した太陽光発電
- ・ 下水処理水の活用
- ・ EV、燃料電池車の導入推進、水素ステーションの整備促進
- ・ 未利用エネルギーの活用（京浜臨海地域の余剰エネルギー、火力発電所の排熱、海水等）



【地区毎において特に展開する取組】

- 「みなとみらい 21 地区」では、横浜の環境未来都市づくりを先導する取組を促進します。（みなとみらい 2050 プロジェクト）
- 関内・関外地区などでは、環境配慮型のエコモビリティの利用促進や、既存建物のエコリノベーションなど、建物更新等の機会を積極的に捉えた環境への取組を推進し、市民の環境意識を高めていきます。



みなとみらい 21 地区における取組案イメージ（横浜市みなとみらい 21 地区スマートなまちづくり審議会資料より）

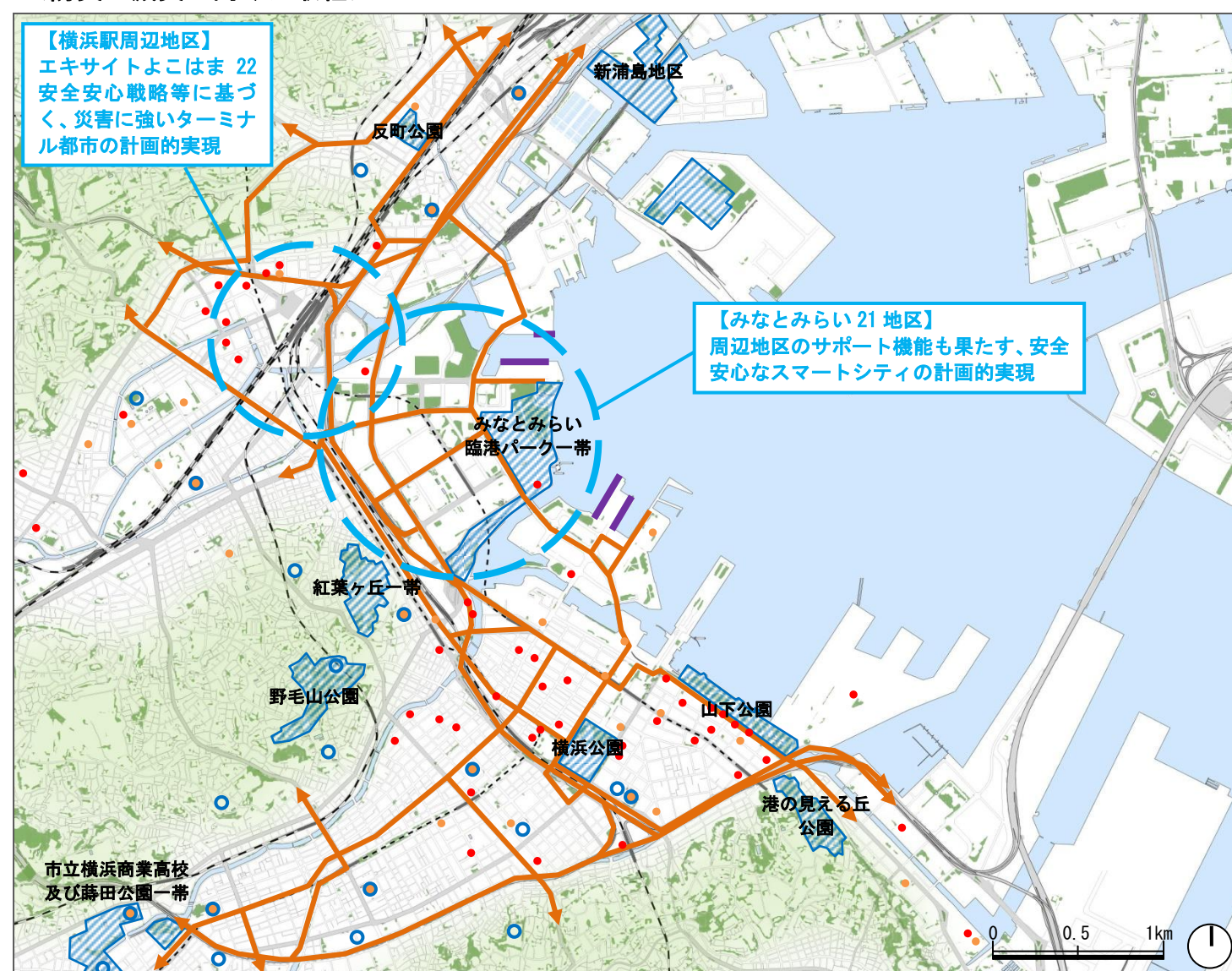
施策④「災害に強い都心臨海部の実現」

■ 防災・減災の多重化による安全・安心づくり

大規模なターミナル駅や横浜経済を担う企業、行政機能等が集積する横浜の中心として、外国人をはじめとする多くの人々、企業に選ばれるため、また、災害発生時の市全体の迅速な復興をけん引するため、横浜市防災計画に基づく防災都市づくりの推進を図り、地震や津波等に対する更なる防災対応力の向上に取り組みます。また、企業等の事業継続を支えるライフラインの耐震強化等とともに、帰宅困難者対策等の推進を図ります。

特に、横浜駅周辺とみなとみらい 21 地区周辺については、地震・津波・台風や局地的大雨などの、災害に対して強靱なまちづくりを官民連携のもと強力に推し進めます。

<防災・減災に向けた取組>



凡例

【防災・減災の多重化による安全・安心づくり】

- : 広域避難場所（都心臨海部及びその周辺）
- : 津波避難施設（公共）
- : 緊急輸送路
- : 津波避難施設（民間）
- : 耐震強化岸壁

【都心臨海部全体のまちづくりと併せた防災機能強化】

<核となる施設整備と併せた、防災拠点の形成>

- 多くの利用者が想定され、また、誰にとっても避難時のわかりやすい目印となりやすい、核となる施設の整備と併せて、滞留者・帰宅困難者等を受け入れる避難スペースの確保や、災害弱者となる外国人等を対象とした情報提供、防災備蓄品の確保等に取り組みます。

<地域防災力の向上>

- 海岸保全施設等の防護施設の整備・改修を行うことで、津波や高潮からの被害を防ぎます。
- 丘陵地に囲まれる都心臨海部の特性を踏まえ、津波の発生に対して、民間事業者との連携を図りながら、津波避難施設等や避難経路を適切に確保していきます。
- 緊急物資の受入を行う海上輸送の拠点として、耐震強化岸壁を適切に配置します。
- 緊急物資等の受入拠点からの緊急輸送路の確保のため、主要な輸送路沿道の建築物の耐震化や下水道のマンホール浮上対策などを促進し、発災時にも機能する道路空間の確保を進めます。
- 電線類の地中化を推進し、道路の防災性能の向上や情報通信ネットワークの信頼性向上を図ります。
- 事業継続のため、都市機能を支えるライフラインの耐震強化を図ります
- 都心臨海部におけるエネルギーネットワークの多重化の取組を推進する中で、地震等災害時における非常用電源の確保を推進します。

<防災意識の啓発>

- 大地震等による大規模災害発生による混乱を最小限に抑えるため、各地区で行われているエリアマネジメント活動と併せて、発災時を想定した防災訓練などを行います。

【各地区のまちづくりと併せた防災機能強化】

<横浜駅周辺における災害に強い都市づくりの計画的実現>

- 来街人口の多い横浜駅周辺においては、エキサイトよこはま 22 や都市再生安全確保計画等に基づき、ゆとりある歩行者空間の創出、デッキレベルの歩行者ネットワーク構築とともに、地盤の高上げや下水道・河川事業による浸水対策、地下街等における避難確保・浸水防止に向けた対策、災害時の帰宅困難者一時滞在施設・津波避難施設・避難経路などの整備を計画的に進め、誰もが安全・安心を実感できる国際交流都市を実現します。
- 発災後の運営体制などのソフト面はもとより、津波の届かない位置への建物の電源設備・防災センター等の配置誘導等、災害時の活動継続に関わるハード面の対策についても、官民連携のもと、実現を図ります。

<みなとみらい 21 地区における更なる災害時対応機能強化>

- 大規模災害発生時でも、津波・高潮の被害が小さく、液状化の危険度が低いと想定される当地区は、自地区内のみならず周辺地区のサポートが可能な地区として防災機能強化を推進します。
- そのため、共同溝や地域冷暖房システムなど既存施設を最大限活用した自立分散型エネルギーインフラの形成により、災害時の対応機能強化に取り組みます。

施策⑤「都市活動の担い手が活躍する仕組み・体制の充実」

■ 多様な担い手の参画による新しい都心づくり

子どもからお年寄り、外国人まで、多様な人々が訪れ・働き・暮らす都心臨海部において、市民や事業者の様々な活動をより効果的に発展させていくため、エリアマネジメント活動の強化・拡充に加え、あらゆる人々が都心臨海部の活動に参画しやすい仕組み・体制づくりに取り組み、活発な都市活動を展開します。また、活動を通じて、まちへの誇りや愛着といった持続的な価値を創造し、人々に長く愛され・親しまれる都心臨海部を形成します。

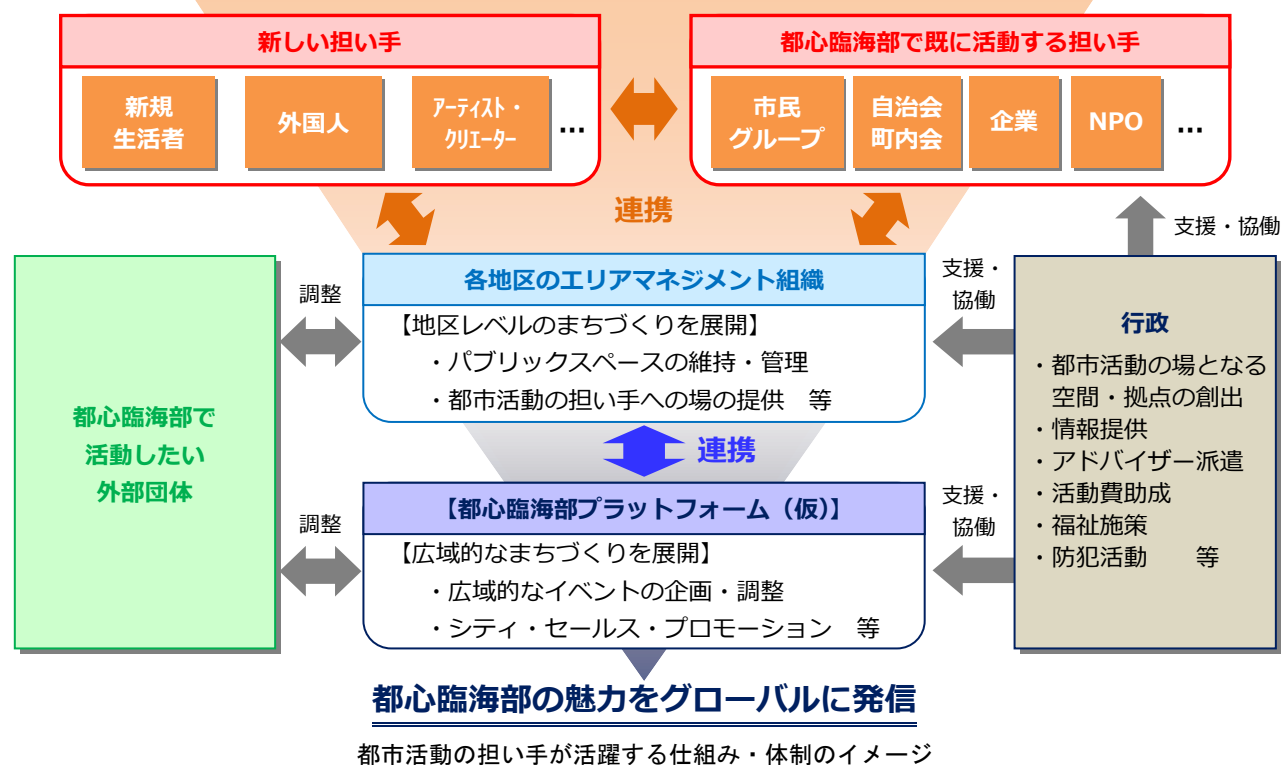
まちづくりの進展とともに、外国人やアーティスト・クリエイターをはじめ、あらゆる人々が地域の人々とつながり、バリアなく安心して楽しみながら暮らせるよう、仕事や趣味、遊び、生活などの様々なきっかけを通じた、多様なコミュニティづくりを展開するとともに、災害発生時などにおいて重要となる共助の関係づくりを進めます。あわせて、将来に渡って横浜のファンを増やすため、来街者を迎え入れるコミュニティづくりを進めます。

また、都心臨海部ならではの魅力的なライフスタイルとして、水辺での活動をきっかけとしたコミュニティづくりを展開します。

【多様な担い手が参画するための仕組みづくり】

- 都心臨海部の魅力を今後一層高めるため、市民・事業者との双方向の対話や協働の中で、地域の様々なニーズ・課題に市民・事業者・行政が一体となって対応していきます。
- パブリックスペースの維持・管理や、利活用による賑わいづくりなど、エリアマネジメントの視点から地域の更なる魅力向上に向けた活動を推進します。
- 都心臨海部のエリアマネジメント活動を促進するための仕組みづくりに取り組みます。
- 既存のエリアマネジメント組織を通じて様々な活動をマッチングするプラットフォームづくりなど、新たな都市活動の担い手が都心臨海部で活発に活動できる仕組み・体制づくりに取り組みます。
- 都心臨海部を舞台とした横浜トリエンナーレ等の大規模イベントや、国際会議の開催など、国内外からの注目度の高まる時期等では、都心臨海部全体が一体としてシティ・セールス・プロモーションに取り組むような広域的な体制づくりに取り組みます。

様々な担い手による活発な都市活動を都心臨海部で展開



【都心臨海部に愛着を持ち、様々な活動でつながる人・コミュニティづくり】

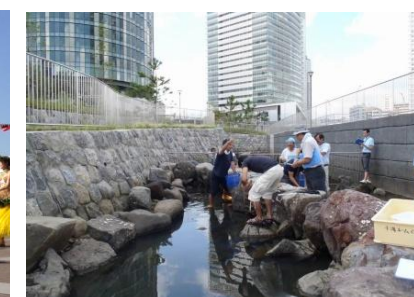
- 自治会町内会や管理組合等の住民コミュニティ、就業者コミュニティや商店街等の地域の様々なコミュニティの充実に向けた活動の場づくりや、コミュニティ相互の連携強化を図ります。
- 文化芸術・スポーツをはじめとする様々な市民活動や、NPO 活動等の支援・促進、外国人が暮らし・活動しやすい仕組みづくり等に取り組むことで、多様な趣味や目的を持つ人々が出会い・つながる、豊かなコミュニティづくりを進めます。
- コミュニティづくりの中で、次世代を担う「ハマっこ」の育成を進めます。



グランモール公園
円形広場でハマこい踊り



ホッチポッチ
ミュージックフェスティバル



市民参加による
高島水際線公園生物調査

- 水辺に面する立地特性を生かし、レクリエーション等活性化水域※を中心に、水上交通や観光船の充実、カヌーやシーカヤックなどの様々な活動、イベントを促進し、水辺をきっかけとしたコミュニティの育成に取り組めます。



レクリエーション等活性化水域の範囲



船上を利用した市民参加型パレード



水辺におけるレクリエーション活動
(大岡川でのカヌー)

※ 横浜港の一層の賑わい創出、魅力向上、港らしい風景の形成などを図るため、水域を市民等へ積極的に開放し、カヌー、シーカヤック、トリアスロンといった海洋性レクリエーションの多様な水域利用を促進するとともに、水上交通や観光船を充実させるエリア

参考資料

■ 審議会の検討経過

横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会

	開催日	議事内容
第1回審議会	平成26年3月27日	(1) 会長選出及び職務代理者の指名 (2) 横浜市都心臨海部再生マスタープランについて (3) その他
視察会	平成26年4月18日	船上から都心臨海部を視察後、バスにて、山下ふ頭、関内・関外地区、みなとみらい21地区、東高島北地区を視察
第2回審議会	平成26年4月25日	(1) 横浜市都心臨海部再生マスタープランについて
第3回審議会	平成26年6月23日	(1) 横浜市都心臨海部再生マスタープランについて (2) その他
第4回審議会	平成27年1月30日	(1) 市民意見募集の実施結果について (2) 横浜市都心臨海部再生マスタープラン 答申(案)について (3) その他

出典

※1	横浜異人商館之図 貞秀画 文久元年(1861) (横浜開港資料館所蔵)
※2	横浜各国商館真図 三代広重画 明治5年(1872) (横浜開港資料館所蔵)
※3	横浜港パノラマ〔絵はがき〕 横浜港湾 1910年代 20世紀初頭 (横浜開港資料館所蔵)
※4	山下公園〔絵はがき〕 昭和期 (横浜開港資料館所蔵)
※5	港町／横浜の都市形成史 (横浜市企画調整局、1981年)
※6	横浜観光コンベンション・ビューロー HP
※7	黄金町エリアマネジメントセンターHP
※8	公益社団法人 日本交通計画協会

■ 審議会委員名簿

横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会(平成27年1月30日)(五十音順・敬称略)

氏名	現職等
新井 鷗子	東京藝術大学 非常勤講師、洗足学園音楽大学 客員教授
池邊 このみ	千葉大学大学院 園芸学研究科 教授
金子 修司	横浜商工会議所 都市政策委員会 委員長
齋藤 貢一	一般社団法人 横浜青年会議所 理事長
佐々木 葉	早稲田大学 創造理工学部社会環境工学科 教授
佐土原 聡	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 教授
鈴木 伸治	横浜市立大学 国際総合科学部 教授
中村 文彦	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 研究院長
藤野 次雄	横浜市立大学 国際総合科学部 客員教授
◎森地 茂	政策研究大学院大学 教授
矢ヶ崎 紀子	東洋大学 国際地域学部 国際観光学科 准教授
山下 真輝	株式会社ジェイティビー旅行事業本部観光戦略室 観光立国推進担当マネージャー
湯浅 真奈美	ブリティッシュ・カウンシル アーツ部長

◎会長

参考資料

■ 審議会における主な意見・アイデア

【全般】

- 横浜のイメージが薄くなってきているので、目的地としての認知を高めていくことが大事である。
- 横浜ならではの強力なテーマを考えることで、人やお金が集まることにつながる。
- 港が交流の中心にはなりにくくなっている中、日本における横浜の役割を明確にすべき。
- 横浜は首都ではないので、全方向ではなく、成長力の高いところを伸ばすのがよい。
- 市民がやりたいことを広く受け止めていけるような、マスタープランの使い方・位置づけができると良い。
- 将来の成長を望む中で、高付加価値を生み出す高度職業人・外国人人材がどう活躍できるのかが重要である。
- 将来に向けては、やはり若者と企業を集めることが重要であり、そのためには若い人達に共感される場所となるべき。
- 一番大事なのは生活者である。
- 外国から来た人が相互に出会う、ある種のハブになるやり方があるのではないか。
- 今後のマーケットとしては、首都圏の高齢者が一番大きい。時間やお金もあり、街を楽しむ目も肥えている。
- 市外の人達がリピーターになるために何が足りないのか、対象をはっきりすることが必要である。

【都心臨海部の特性】

<まちの資源>

- 横浜には、歴史的資産や港町としての国際的なイメージがある。
- 都心臨海部のユニークで良い点は、海に直接面してこれだけの都心部が広がっていることである。
- 横浜は吹奏楽やジャズの発祥の地であり、世界の音楽に門戸を叩いた日本を代表する場所である。
- 横浜には富士山から来た水が流れており、文明開化を支えていた歴史もある。
- 横浜には、開港以来ずっと、皆が携わって街をつくってきたソーシャルな部分がある。

<立地環境>

- まちがポリセントリック（多極分散型）にできていることは重要。アジアで稀有な副都心であることは発信すべき。
- 国際都市横浜は、すべての機能が集積する東京都心部とどのように差別化できるかが課題である。
- 国内での横浜ブランドは強いが、海外からの観光と捉えた時に、東京の活用も視野に入れるべき。
- 箱根・鎌倉・三浦半島など、他地域と連携していく中で、横浜の良さも出していけるのではないか。

<他都市の事例>

- ロンドンでは産業振興だけでなく、教育、ビジネス、規制緩和など、包括的に戦略を練り直している。
- 英国のブリストルでは、イノベーションや研究機関のビジネスなど、クリエイティブな経済活動に力を入れている。クリエイターも、発表の場はロンドン、創作の場はブリストルとしている。
- 公共空間をいかに人の集まるパブリックスペースに転換していくのかが、世界的なトレンドである。
- シンガポールは、多くの木陰をつくることでガーデンシティと称し、都市ブランドづくりにつなげている。また、食・文化全てのキャピタル・オブ・アジアと言い切っている。
- ドイツのハーフェンシティなど、海外都市では港の特徴をうまく生かして再開発をしている。

【まちづくりの戦略】

<産業：国際ビジネス>

- シルク貿易で流通革命をおこした横浜にとって、イノベーションは重要なテーマである。
- 専門性の高い人達が楽しめる街づくりや、研究拠点と連携した本社機能の整備など、京浜臨海部と連携すべきではないか。
- 成長が見込まれる創造産業のうち、就業者数が一番伸びているのはIT関連の分野である。
- ビジネスにイノベーションをもたらすフューチャーセンターのような機能を街が果たせれば良い。
- 横浜は東京に比べ土地が安いので、投資すれば豊かなスペースが得られるというストーリーもある。
- 開発予定地の暫定利用も重要。例えば、植物工場を設置し都心で農の研究開発を進める発想もある。

<産業：ホスピタリティ>

- 国際会議の開催誘致に向けた競争力を高めるためには、街の売りが必要である。
- 広域に人を集めるIRは積極的に導入すべきである。ただし、街全体の活性化に向けた戦略が併せて必要である。
- 夜の経済にも本気で取り組むべき。現状では、アフターコンベンションを楽しみに東京に行っている。
- 横浜に文化を学ぶ視点で訪れる方を大切にしていきたい。外国人使節団も数多く訪れている。
- 欧米人は観光で、日本の内面の部分を求めており、生活空間としての魅力も重要である。
- 外国人を呼び込む上で食文化は重要。都心臨海部は食と職住が近く、平面的に楽しめる特徴がある。
- 今後まちづくりを進める山下ふ頭や東神奈川臨海部では、人を呼べるオリジナルのコンテンツをつくるべきである。

<産業：クリエイティビティ>

- 成長と創造性とイノベーションとは非常に関係していて、都市の魅力にも重なってくる。色々な部局が連携して、更に議論を活性化すべきである。
- 横浜はデザイン・クリエイティブを大切にしており、社会もデザインすれば、更に競争力は高まる。
- 文化に対する投資がまだまだ足りない。あわせて、教育面のシステムの充実化も重要である。
- 横浜はハイセンスなものが活きる。そこにシルクドソレイユのようなものを入れると、繊維産業やアートが生まれ、若者のクリエイティブなアクティビティと一緒に、文化も育つ。

<生活>

- 横浜の魅力として、「港のある横浜らしい暮らし」がある。その根幹には、「都心居住」がある。
- ヘルシーでハッピーなライフスタイルを描けるかが重要で、都市力の指標としても用いられている。
- 環境は、食料、森林資源、水、エネルギー等、広がりを持った視点で取り上げると良い。
- 超高齢化社会の先進国となる日本の中で、横浜が世界をリードする社会モデルとなると良い。

<空間>

- 市民や街の人達に、「みなと交流軸」のイメージを持っていただき、皆でこのゾーンを考えていくのが良い。
- 横浜の個性ある地域のブランド化が進むと、訪れたい街になるのではないか。
- 関内・関外地区の再生は非常に大きなテーマである。横浜のスタートをきった場所であり、再構築される公共施設もいくつかあるので、積極的に議論を進めていく必要がある。

参考資料

【拠点・空間】

＜ビジネス・生活環境整備＞

- 国際化を進めるには、24時間仕事ができる環境を整え、時間的・空間的なバリアを取り除く必要がある。
- 企業誘致のため、国際企業に対する環境整備や、インセンティブを与える施策が必要である。
- 横浜でスタートアップする企業を増やしていく環境づくりが必要である。
- 外国人の子供をすぐに小学校に入れたり、留学生を下宿させたりする場があると良い。
- 信号が少ない海岸線は、皇居のようなジョギングコースとしての魅力がある。

＜空間づくり＞

- 港町としての歴史と文化を中心に今後のまちづくりを考えるべきである。新しい開発を目指しても、上海の方が進んでいる。
- リノベーションのような、地価を顕在化させない都市づくりを、特に旧都心部で展開すべきである。
- 山下ふ頭を土地利用転換していく際に、クリエイティブシティの取組を顕在化できるのかが重要である。
- 70～80年代のアーバンデザインの挑戦に敬意を払い、皆が共有できる形にしていくことが大切である。
- 歴史をただ保存するだけでは、テーマパークのような形になってしまう可能性がある。歴史的なものに対する敬意を持ち、どのようにしていくか丁寧な議論が必要である。
- 関内などにある、高度経済成長期から日本を支えてきた中低層の建築物を歴史的資産として継承すべきではないか。
- まちの空気や雰囲気に影響を与える、空間の質を保つことが重要である。
- 駅、市役所、大規模施設が一体の風格ある拠点が形成されると、自ずと横浜らしい空間となる。
- 横浜が長年取り組んできた、都市デザインを強く位置づけるべき。社会的にも高く評価されており、アジア随一の魅力と捉えている。
- 道路空間自体の使われ方を見直し、そこに文化芸術が絡んでいくようなイメージがあると良い。
- 都市デザインがきれいに見える、視点場をつくと良い。
- 日本に来ているアジアの留学生は、日本の歴史的な街並み再生の手法を学びに来ている。
- 文化施設は、いかに年を重ねてきたのかが重要視される。既存施設を活用することも重要である。
- 野毛や黄金町のような生活空間として魅力の高い場所に、人々を呼び込んでいくことが重要である。

＜拠点づくり＞

- IRの導入にあたっては、街中にも利益がでるように、街と一体で打ち出すことが必要である。
- IRから得られる一部の収益を基金化し、文化芸術活動の資金とする発想もよいのではないか。
- 市民が一流の文化に触れるため、単独では運営できないホールをIRとセットで行うと良い。
- 韓国では、外国人が来るカジノを原資として、外国人誘致のための国際会議を開催している。
- 外資ホテルや大規模宿泊施設ではなく、既存のホテルを改変することで、横浜らしい宿泊施設になる。
- 大きな文化施設を建てる際には、稼働率や付随する団体、施設面を慎重に考える必要がある。
- 同じプログラムでは東京に勝てないので、横浜でしか聴けないものをつくる必要がある。例えば、バレエ学校とバレエ劇場、それに特化した宿泊施設、日本初のバレエ専用のホールなどが考えられる。
- 中央卸売市場のエリアは、横浜駅周辺から東神奈川臨海部周辺や京浜臨海部につながる重要な場所ではないか。周辺には臨港幹線道路が建設されるため、今は何かをしかけるチャンスと捉えられる。
- イノベーションをおこすプレイヤーとして、大学を位置付けるべきではないか。

【回遊性】

- 土地利用転換が見込まれる山下ふ頭周辺地区に、客船受け入れ機能を持たせる選択もある。
- 水上交通や超小型モビリティを積極的に導入するのであれば、交通結節点のつくり方の見直しが必要である。
- 街の移動に、ロープウェイがあっても面白い。海外には実用化されている例もある。
- 大通り公園の再生・利活用と併せた関内・関外地区の回遊性の向上が必要である。

【環境】

＜緑と水づくり＞

- 新しい緑のあり方や、クリエイティブシティの仕掛けづくりにより、港の美しさを演出できると良い。
- 庭園型の公園づくりが必要である。市民の力により、集客を競えるくらい品格のある公園に変えていくことも可能ではないか。
- 海をきれいにするため、山下ふ頭にシンガポールのような浄化施設をつくと良いのではないか。

＜最先端の環境技術＞

- 横浜は今ある生活の中で環境未来都市を実現しており、汎用性が高い環境未来都市と言える。
- 拠点間のエネルギー連携により、効果的な環境負荷低減を図り、災害時の供給安定性も高められる。
- 環境などの取組を一般の方々に見せるためには、イベントを使って人を呼び込む施策も必要である。

【安全・安心】

- 海からの船を使った色々な災害対策が重要である。
- 災害時の交通など、回遊性と安心・安全が同時に追求できる視点を入れると良い。

【多様な担い手の参画】

＜仕組みづくり＞

- 横浜には、小規模な事業者が集まっている中で、オール横浜で人を呼び込む体制が必要ではないか。
- 発信力がある海外の視察団を受け入れる、ワンストッププラットフォームがあると良い。
- 国際会議の誘致のためには、都市の魅力のアピールが重要であり、マスタープランはその武器になる。
- 港町の歴史を生かした都市デザインやポリシーが一つの目玉商品になると良い。
- 多言語でシティプロモーションをやるというのも、エリアマネジメントを進めていく上で必要な取組である。また、シティプロモーションをやするためには、原資のあり方を含めたエリアマネジメントについて、言及すべきである。
- 横断的な体制をつくる事で、例えば市町村単位での情報発信ではなく、それぞれの人達のニーズに合わせた情報を得られるようになるという点が良い。
- 例えば、映画の撮影地として利用されることで、横浜のイメージを世界に発信できる。

＜コミュニティづくり＞

- 市民がイメージしやすいよう、新たな拠点となる施設をどんな風にも利用できるのかが見えると良い。